

白山・南竜パーワン

2009～2018 KUWV-OB

目次 (各回のラインをクリックすると、該当ページに移動します)

起案編	2008年9月	KUWV 創立 50 周年記念パーティ (白山南竜 PW のきっかけ)	…1
第 1 回	2009年7月	学生時代の山仲間 ホームグラウンドの白山南竜に集う！	…4
〃	〃	KUWVOB 南竜集中 PW2009	…6
第 2 回	2010年8月	南竜集中登山	…10
第 3 回	2011年7月	老いても元気はつらつ 南竜ヶ馬場に KUWV ワンダラーが集う	…13
第 4 回	2012年7月	『白山って いい山だ』認識新たに！	…16
第 5 回	2013年7月	白山登山前にも すごいお楽しみの時間があった！	…21
〃	〃	土砂降りの雨の歓迎を受けて 南竜に集結！	…22
第 6 回	2014年7月	ヤマジージ 元気はつらつ 名峰白山を歩む	…27
第 7 回	2015年7月	大雨のため 南竜ケビンで沈殿だ	…40
第 8 回	2016年7月	俺たちや 徘徊老人ではない 山を楽しむハイカーだ	…41
第 9 回	2017年7月	豪雨に逆らわず 白峰の民宿に避難	…52
第 10 回	2018年7月	俺たちや 10 年間も通い続けたよ 霊峰白山に	…53

上掲の各山行記録は、山行実施時点で、別々の筆者によって独自に作成されたものです。公開前提ではない単なる個人用記録、あらかじめ公開を前提として作成された記録などが混在した寄せ集め記録です。

それゆえに、記録内容も、PW 全体を網羅したものではなく、偏重した内容になっています。全体の統一感にも欠けています。

それでも、10 年分の記録を掲載することで、この白山・南竜 PW の雰囲気などが読み取れるのではなかろうか…と考えて、この度、取りまとめました。

本屋の店頭での立ち読み気分で、パラパラと斜め読みをどうぞ。

(記録整理担当)

9 期 鍋島武 nabeshima2828@nifty.com

08/09/25
No.65

NewStage60

KUWV 創
立 50 周年金沢大学ワンダーフォーゲル部
創立 50 周年記念パーティー2008.9.14
KKR ホテル金沢

わが KUWV も半世紀の歴史を刻むとのこと。これを機に催された OB 総会、創立 50 周年記念パーティーに参加した。OB および現役学生あわせて、130 名位の参加者とのこと。盛大なパーティーと相成った。パーティーでは、創立に関係した先輩たちの挨拶（右の写真）や各年次の出し物で賑わった。



40 年振りの出合い、！“お前さん、誰？”

ホテルの総会会場に入って、懐かしい顔を見つけては、挨拶をかわす。みんな元気そう。こちらを懐かしげに見ながら近寄ってくる方がいる。我が頭の中は？？？！！…。“うぬっ、この人、誰だっけ・・・？”。「ナベちゃん、元気そうだね。変わんないね。」と声を掛けられても、“わかんねーよ”。

1968 年（昭和 43 年）に、大学を卒業して丁度 40 年。俺、ボケなのかな、目の前の御仁が変わったのかな、成長したのかな……。やんわり名前を聞いて、大爆笑、そしてかたく握手。

こんな光景を積み重ねて、先輩・後輩たちと、懐かしい、楽しい…記念パーティーであった。



中川さん（3 年先輩）

南アの夏合宿、冬山の大門山などが一緒。工学部卒業だが、仏門に入り、今は帯広大谷短大の学長さん。学生時代にやっていたと同じようなことを今の学生がやったら、お説教するのかな！

洋治さん 先輩が卒業して 41 年目の再会だ。すぐには判らなかった方々の一人。

穴田さん、白井さん、柳川さん お三かたは頻繁に会っているので、不安なく挨拶ができた。今後も頻繁に元気な姿で会いましょう。穴田さんの髪は貫禄がついてきたね。お坊さんが二人並んでいるみたいですね。

二次会はその『吉田』で大盛り上がり！

二次会は山村さんが手配してくれたスタンドバーへ。学生時代、ワンゲルがよく通ったおでん屋『吉田』の娘さん達が経営している店だ。当時、おでん屋の手伝いをしていた娘さん（姉）と高校生であった娘（妹）さんが、我らワンダラーを大歓迎してくれた次第。

二次会は、8 期と 9 期を中心とした集まりでもあるので、楽しさ百倍、盛り上がり百倍…ということで、あっという間に夜が更けてしまった。



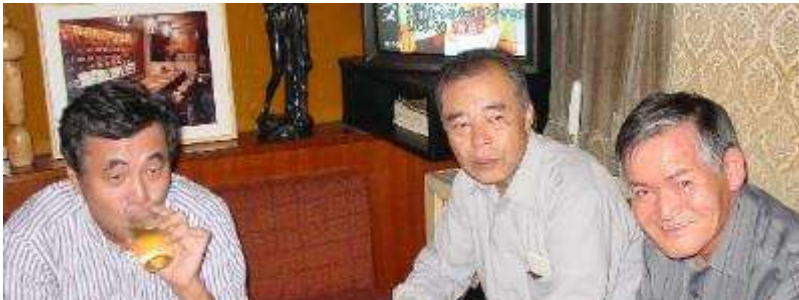
石徹白さん (旧姓) 二次会の場に、突然現われ、みんな、びっくり。喜ばせた。41年振り。



野村さん カラオケを何曲もご披露。学生時代以上にアクティブかも。女子大勤務故かな。



俊成さん いつもお世話になっています。今回もスタンドの中からみんなに大サービス。



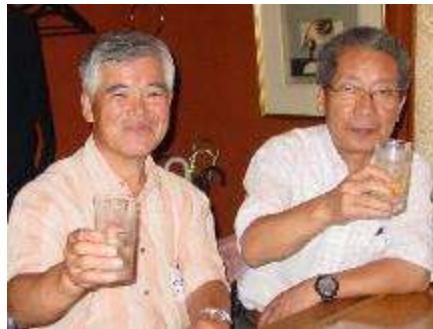
わが同期の**保田さん、洋二郎さん、橘さん** 橘さんとは40年振りだが、すぐ判ったね。いつもあっている保田さんも、洋二郎さんもますます若々しいね。このままで行こうぜ!



山中さん、篠島さん 現役のところからは想像できぬくらいに、山歩きを実践している二人だ。



伊豫さん 情熱も体つきも、41年前と同じだ。おつむを除けば。44年前の歓迎PW、冬の大門の話に熱弁だ。



山村さん、小谷さん はじめは小谷さんとは判らなかったね。41年振りだものね。いつも我らをまとめてくれるのが山村さん。今回もだ。

パーティーで懇談したり、二次会で話し込んだりしているうちに、どなたも昔のままだということがすっかりわかってくる。40年前のことがついこの間のこのように思えてくる。

飲んだ勢いでしょうか、それとも若返ったせいでしょうか、お開きでは、来年は白山・南竜で再会することを誓い合ったものだ。来年も元気で会いましょう!

来夏は、白山・南竜だ!



1965年7月(43年前) 北ア 抜戸平偵察の二

40年前と同じ顔の代表格はこの二人。40年前に成長が止まったのか。あるいは昔から成長しきっていたのか。これから20年後も同じであれ!

山村さんに感謝: 1、2頁の二次会の写真は山村さんの提供。3頁は山村さんが参加者に提供・配布したものをそのまま貼り付けたもの。これって盗作かな。山村さん、ご勘弁を!

KUWV 創立 50 周年記念パーティーと二次会
平成 20 年 9 月 14 日 KKR ホテル金沢 すたんど秋子



二次会も遂にお開き午前 0 時 30 分頃?
翌日の白山登山される方など数名は途中退席



提供: このページは山村さんから配信されたもの

《目次に戻る》

09/07/31
No.80

NewStage60

KUWV
白山登山

学生時代の山仲間 ホームグラウンドの白山(南竜)に集う！



山村嘉一

伊豫欣二
篠島益夫山中重夫
柳川徹鍋島武
吉村弘二村田泰恵
島林仁司

伊豫敦子

谷道正晴
吉田幸造
藤井信晴

四〇年の年輪を重ねたワンダラー
金沢大学ワンゲル部OB会七期〜一〇期の有志達
七月二五日(土)〜二七日(月) 白山・南竜馬場

白山は、雨、ガス、強風で大歓迎！？

初日

朝3時に山村さんに上荒屋に迎えに来てもらい、集合地の南竜までは、二人での登山。甚の助ヒュッテから雨と風に見舞われる。



2日目

みんなは2泊予定。小生一人で下山。やはり雨具着用下山。



山村さんと鍋島のパーティには、雨は付き物だ。昭和40年(小生大学2年)の夏、二人で行った合宿の集中地／抜戸平の偵察の際は、記録的な豪雨の中であつた。



きっかけは、酔っ払った勢いだ！

昨年の KUWV50 周年記念会の 2 次会も終わり頃に、山村さんからこの『南竜集合』の案が提起された（参照 NewStage60 第 65 号）。酔っぱらいのワンダラーの大賛成でまとまったもの。その後もやはり山村さんの計画推進で、この計画が実現した次第。この夏の梅雨明け宣言がされないままに、登山日を迎えた。各自の責任で登り、南竜に集まることになっていたが、強い風、雨の中、昔懐かしい面々が元気に集まってきた。

みんな昔の顔そのままだ！

学校卒業以来の再会の面々も、時間が経つうちに、「島林君だ。…だ」と分かるようになった。さらに時間が経つと、みんな昔のまんまだ…と、思ってしまうのは不思議だね。

7 月 25 日（土）曇のち雨

3:15 上荒屋
山村さんの車に便乗
4:25 市ノ瀬着
5:00 市ノ瀬発（バス）
5:10 別当出合着
5:17 別当出合発（登山開始）
7:37 甚之助
9:07 南竜馬場着

7 月 26 日（日）雨

6:48 南竜発
9:13 別途出合着
バス停で、この日登る谷道君に卒業以来の再会。



左の 2 枚（山村さん提供）は、2 日目、3 日目の仲間の様子。谷道さん、幸造さんも合流。（小生は下山）

『KUWVOB南竜集中PW2009』

8 期 山村 嘉一

※日 程：2009 年 7 月 25 日～27 日

※コース：各自の状況に合わせて、自己責任で白山の南竜ケビンに集まろう！！

参加メンバー

7 期 村田 泰恵、吉村 弘二

8 期 伊豫 欣二、篠島 益夫、藤井 信晴
柳川 徹 山村 嘉一

9 期 谷道 正晴、鍋島 武、山中 重夫
吉田 幸造

10 期 伊豫 敦子、島林 仁司

以上 13 名。うち 25 日一泊は、篠島、鍋島
26 日一泊は、谷道、吉田 以外は全員二泊

以下、記録を付ける習慣が、非常に薄れてしまったうえに、記憶も斑ボケになりがちで、日時や人、出来事までが入れ替わることが多いのですが、鳥越さんの勧めにより、雑駁なご報告をさせていただきます。間違いが色々あるでしょうが、お許してください。

※きっかけ

そもそものはじまりは、昨年の創部 50 周年記念式典の二次会。そこで、酔いが回ったこともあって、『白山の南竜に集まるのはどうやろか？』、『そりゃ好い！やろうや！』、『行く、行く！』と盛り上がったのであった。この二次会は、8 期の先輩に当たる方々を中心に、前後の期の人たちが現役時代に、何の下心もなく？よく飲みに行った人も多い“おでん吉田”さんの（当時）お嬢さんがやっている“パー秋子”に集まったものである。その時のメンバーは以下の 17 名であった。

中川 皓三郎(6 期)、穴田 昭一、伊豫 欣

二、高水間 淑子、小谷 太平、篠島 益夫、野村 孝弘、藤井 洋治、柳川 徹、山村 嘉一(以上 8 期)、伊藤 俊成、白井 勇、鍋島 武、平村 耕作、保田 敦、山中 重夫、吉田 洋次郎(以上 9 期)

ご覧の通り、冒頭の参加メンバーと比べてみると、お酒の影響がかなり大きかったことが良く窺える。(もっとも参加したい気持ちは強いものの、どうにも都合のつかない事情の人がほとんどでしたが…)

8 期としては、2003 年 9 月に同期会を湯涌温泉一泊でやり、楽しく、懐かしいひと時を過ごした。その時も元気な人は遠方からの参加にもかかわらず、前後にそれなりの山行を組み合わせた人が何人もいた。しかし、それ以降、8 期の連絡責任者である山村は、何かやりたいなあ～、それも温泉一泊というのはワングル OB としてはちょっとさびしい限りだし、最大公約数的な行動範囲とすると医王山往復ぐらいを絡めるくらいしかないかなあと考えていた。その後、山村の胸の内には、白山の南竜のケビンならば、各自がそれなりのペースでゆっくりと集まることができるのではないかというアイデアが湧いてきた。それが 50 周年の二次会で一気に盛り上がった訳であった。

それから約半年後の 2009 年 4 月 1 日午前 9 時が白山の夏山シーズンの宿泊施設の予約受付開始である。当然その時刻を待ってダイアルしたが、何度やっても話中音。午後になってようやくつながったが、7 月 25 日、26 日各 2 室の希望のうち、25 日はかろうじて最後の 1 室のみ、26 日は 2 室の確保ができた。その後、メールやメールをやらない人には往復はがきなどで案内をして、『KUWVOB南竜集中

PW』なるものが、どうにか実現した。

しかし、世話役山村の心がけが悪いのか、一番良い時期を選んだつもりだったが、お天気は良くなかった。山村はそれなりに気を遣って、7月5～6日一泊の“偵察行”をやったが、この時も天気は芳しくなかった。

※7月25日（1日目）

さて、当日、山村は3:00前に自宅を出発し、途中、鍋島さんをピックアップして、市ノ瀬到着が4:25。すでに駐車場はかなり埋まっており、別当出合行きが一番バスには列ができつつあった。雨は降ってはいなかったが、良くない気配。バスはすぐに一杯になり、定刻5:00の少し前に出発、5:17には別当出合から登り始めた。お酒を欠かすことのできない山村は、2リットルの“箱入り清酒”を、馬力のある鍋島さんに持ってもらったが、それでも15～6kgのザックは歳には重く、彼に置いて行かれないように、彼の前をゆっくり歩いた。鍋島さんにしたらじれったかったことだろう。途中からは時々雨や風に見舞われながら、コースタイムをかなりオーバーした9:07に南竜の受付棟に到着。早速ロング缶で乾杯した。鍋島さんによれば、現役時代も鍋島、山村のコンビ山行には雨が付きものだったとのこと。

その後、①南ア縦走途中から引き続いて参加の篠島さん、②東京から飛行機組の吉村、柳川さんに、一緒になった村田さん、③これも東京方面から自家用車で来た山中、藤井さん、さらに④大阪を早朝に発ってきた伊豫夫妻、島林さんの順に風雨の中を歩いて来られて、本日の宿泊予定者が全員揃った。現役時代に習慣化させられた細引の携行が、濡れた衣類

を吊るすのに役立ったが、ケビン内に細引を結び付けるフックなどがなかったので、ちょっと苦勞した。

天気も悪いし、まあゆっくりしようやと持ち寄った、お酒、ワイン、ウィスキーなどのアルコール類の他に、自家栽培の自慢のトマト、キュウリなどが並んだ。

山村としては、来年や、次回のことなど考えてはおらず、とにかく今回をやれば、次は誰かやりたい人がとのつもりだった。しかし、話題はそちらの方に進み、毎年梅雨明けが遅くなっているから、8月に入ってからの方が良いとか、土日は避けた方が良いとかで、早々と来年は8月5日（木）～7日（土）でやることに決められてしまった。

ケビンは定員5名では広すぎるが、11名では少々窮屈。それでも室堂山荘にギューギュー詰めになることと思えば上等。尤も、伊豫（欣二）、島林さんが、寝具や敷物入れの戸棚状の所を二段ベッド方式で我慢。

夕食後のケビンでの二次会には自然解説員として入山していた奥名さんも加わり、ワイワイガヤガヤと懐かしい話に花が咲いた。村田さんが昔のワンゲル歌集から今回のために抜粋・編集してこられた歌集で、久方振りに歌も歌った。

※7月26日（2日目）

濃いガスと雨でどうしようもない。そんな中、鍋島さんが6:48に、次いで篠島さんが下山。残ったメンバーは天気良ければ、頂上周辺からお花松原あたりのワンデリングを考えていたが、とてもその気になれない天気。そのうち少々雨が止み始めたので、せめてエコーラインで花でも見ながら、室堂まで行ってみようということになって出発したが、エコー

ラインの途中で再びドシャ降り。見る間に登山道が小沢状態になり、引き返すことになった。南竜山荘の乾燥室などを使わせて頂いたり、この日の自然解説員のスライドによる解説を聞いたりした後、ケビンでの沈黙と相成った。

この日、谷道、吉田さんが入山。

夜、雨が上がり、いつとき、福井方面の夜景がきれいに見えた。(前夜だったかな?)

※7月27日(3日目)

相変わらず天気の良い中、谷道さんが早々に下山。みんなも様子を見ながら、雨の中をゆっくり下山することになった。元気な吉村さん、柳川さんは分岐点から、黒ボコ岩へ登り返して観光新道を下山

(しかし、かなりしんどかったとのこと)。伊豫さん他数名も途中まで花を見に。下るに従って雨も上がり始め、無事別当合に到着。新装なった白峰の総湯に浸かって、解散となった。後は、蕎麦屋へ寄った人、岩魚を食べにどこかへ立ち寄っ

た人、早くビールを飲みたくて自宅へ直行した人など、それぞれであった。

雨に降られっぱなしだったのに、とても楽しかった、来年もまたやりましょうという、メゲルことの知らない皆さんでした。

以上

ところで、『KUWV 南竜集中 PW2010』は、2010年8月5日(木)～8月7日(土)で行われる予定です。(ケビンの予約は、2010年4月1日の電話のつながり方次第です。)

参加ご希望の方は、8期山村まで、ご一報ください。なお、連絡先は以下の通りです。

住所：〒920-0335 金沢市金石東 2-7-8

自宅電話：076-267-4704

PCMail：spsf55t9@song.ocn.ne.jp

携帯電話：090-215-6099

携帯 Mail：yskzymmr@docomo.ne.jp

こんな感じで2泊3日の住居？
表示をしました

26日の朝ガスに包まれたケビンの前で
1日目お泊りのメンバー



テントと違って沈殿してても快適そうな様子



2晩目の夕食時のカンパ〜イ



ようやく雨が上がった中飯場で、水かさの増した不動滝を背に、2 日目に
お泊りしたメンバーのうち無難に砂防新道を下山してきたメンバー

KUWV 白山・南竜 PW 第2回 2010年8月5日～7日

南龍集中登山

2010 8/5～7

南竜にお越し頂いた皆様

山村嘉一

お疲れ様でした。小生自身かなり疲れました。歳とトレーニング不足を実感しました。体力に余裕をもって、転ぶこともなく山を歩くには、それなりの体力作り・維持に努めましょう。

参加した皆様の証拠にとわずかな写真を添付します。

室堂へ



別山



いざ御前峰へ

御前峰頂上





ハクサンゴザクラとクロユリ



お花松原からの帰り道



室堂にて



二日目のフルメンバー 南竜小屋前



コバイケイソウ



ハクサンコザクラ



クロユリ



ミヤマダイコンソウ



チングルマ



イワギキョウ



コイチョウラン



クルマユリ

写真も体力的な余力と、創作？意欲が十分でないと良い写真が撮れないことも実感させられました。写真も撮れないのに、転んだりぶついたり、新品のカメラのレンズフードも傷が一杯！

最高の好天に恵まれたのに、自分としては反省の多い白山でした。

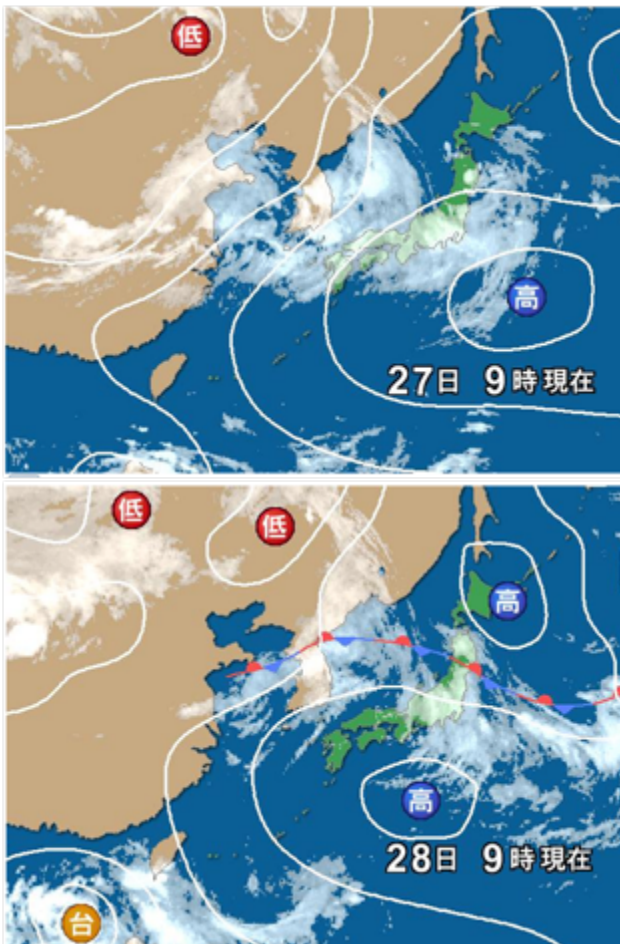
来年度の計画は、手分けしてやりましょう！！

11/07/27
No.112

NewStage60

K U W V
白山南竜

老いても元気はつらつ 南竜ヶ馬場に KUWVワンダーラーが集う！



今年の梅雨は、例年よりも1週間くらい早くあけ、今は真夏のはずだが、天気図では、梅雨のような停滞前線が現れている。そのため、新潟・福島中心に記録的な豪雨で、河川の氾濫や土砂崩れ、冠水で、被害も甚大だ。

東山茶屋街でKUWV懇親会

今回の帰省で、もうひとつ楽しい会が設定された。7月23日(土)金沢東山茶屋街・蜷屋で、KUWVの先輩方の山村さん、穴田さん、玉野さん、野村さんとの懇親会だ。

たっぷり語らうことができ、おいしいお酒と料理も堪能できた。声をかけていただいた先輩方に感謝しています。

50年近く前の大学時代、若者たちは、重い荷物を担ぎながら、北アルプス・南アルプスを中心に、全国の山々を歩きまわったものだ。

その若者たちは社会に旅立ち、それぞれの道で踏ん張ってきた。仕事、子育てに全力投球をしてきたであろう。そして一定の役割を成し遂げて、会社は定年に。子供たちは育って、独立。

彼らは年金族になるまでに歳をとったが、まだまだ元気だ。『もう一度、山を楽しもう』と、彼らは躊躇することなく、再び山に向かいはじめたのだ。

山村さんの声かけで、毎夏、白山の南竜ヶ馬場に集まっている。そして、3年目の今年も13名のワンダーラーが、集まってきた。

一昨年続き またも雨だ！

小生、一昨年も参加し、すごい雨降りであったが、今年も同じようにひどい雨である。

1泊目に集まった11名のうち小生を除く10名は昨年も参加しており、好天であったという。雨男のレッテルを頂戴したくないが、無情の雨だ。



第1日目 7月27日(水)



山村車4人組で南竜へ

山村さんが、早朝真っ暗な時間帯に、3人を次々とピックアップして、別当出合に向かう。別当出合から4名歩調をそろえて、南竜ヶ馬場へ。

山の鉄則の早朝出発であったので、目的地に着くまでは、雨はそれ程でもなかった。到着後、天気は崩れる一方。

(今回のPWは各自の責任で南竜に集まる方式)

雨の中、続々集合!

予定の参加者全員が、この雨の中、南竜に続々到着した。さすが 50 年前に鍛えた財産をフル稼働させれば、こんな雨には負けないワンダラー達だ。



28日29日も南竜を堪能した面々…瞬間晴れ間もあったようだが、室内行動が中心だった模様。

私の山行日程

7月27日(水) 曇のち雨

4:20 上荒屋
山村さんの車に便乗
6:33 別当出合発(登山開始)
7:11 中飯場
9:08 甚之助避難小屋
10:05 南竜分岐
10:38 南竜山荘着
12:35 ケビンに移る

7月28日(木) 雨

8:30 ケビン発
8:45 南竜山荘
9:02 甚之助避難小屋
9:58 別当出合着
・他の方々は、28日も南竜に
宿泊。小生一人で下山。

参加者

敬称略順不同

13名
田村昭夫
吉村弘二
穴田昭一
伊豫欣二
藤井信晴
山村嘉一
谷道正晴
鍋島武
保田敦
山中重夫
吉田幸造
山西久美子
山西潤一



第2日目 7月28日(木)

風雨の中 一人慎重に下る!

皆さんは29日下山であるが、小生一人のみ、仕事の関係で下山。風雨の激しい中、南竜を出発。雨の中の下りなので、いつも以上に気をつけての下山で、無事、別当出合に到着。別当出合から、予約済みの車で、小松空港へ。途中で、温泉タイム45分も設けてくれて、大満足。

可憐な花と野獣たち

南童はお花の宝庫だ



今号の写真提供者
山村嘉一さん
ありがとうございます

12/08/01
No.127

NewStage60

K U W V
白 山

『白山って いい山だ』 認識新たに！



南竜ヶ馬場に集まったワンダラーOB 18名！

例年この時期に、山村先輩のお世話で、KUWV OB の面々が、白山・南竜ヶ馬場の南竜山荘・ケビンに2泊の山行をやっている。ケビンでの宿泊すること以外は、自由に登ってきて、自由に行動し、自由に下りていくことになっている。ワンダラーOBとして、自分で責任を持って山歩きをする企画である。

通常勤務での定年となり、時間的余裕が出てきたワンダラーOBが、昔の活動を思い出し、昔の山仲間をなつかしく思い、また山を歩きだしたのだ。集まってみると、若干歳はとったが、性格も顔つきも、KUWVの現役時代の20歳前後の青年時代とほとんど同じである。

7月25日(水)

～27日(金)

参加者 18名

(前列左から)

①山村嘉一

②村田泰恵

③吉村弘二

④合津 尚

⑤高水間淑子

⑥谷ロケイ(ゲスト)

(中段左から)

⑦穴田昭一

⑧鍋島 武

⑨吉田幸造

(後段左から)

⑩伊豫欣二

⑪清水 一

⑫山西潤一(ゲスト)

⑬山西久美子

⑭藤井信晴

⑮谷道正晴

⑯山中重夫

⑰伊藤俊成

⑱長岡正利

今回が10回目の白山だ！
学生時代はボッカ隊で活躍！
今回は白山の良さを初めて楽しんだ！

	年月日	泊 日		山行名
1	1964. 07. 11～	4泊5日	大学1年	学内オープン山行(ボッカ)
2	1965. 05. 29～	3泊4日	大学2年	白山PW
3	1965. 10. 12～	3泊4日	〃	1年生準合宿
4	1966. 07. 10～	3泊4日	大学3年	学内オープン山行(ボッカ)
5	1966.	2泊3日	〃	北陸3大学合ワシ
6	1967. 08. 05～	1泊2日	大学4年	親子ワンデリング
7	1967. 08. 30～	2泊3日	〃	学内オープン山行(ボッカ)
8	2009. 07. 25～	1泊2日		KUWV OB 南竜PW(雨)
9	2011. 07. 27～	1泊2日		KUWV OB 南竜PW(雨)
10	2012. 07. 25～	2泊3日		KUWV OB 南竜PW(晴)



7月25日

穴田さんは長年の優良ドライバー、名教師だった！

当日朝、八千代の自宅を出発し、小松空港で穴田さんにピックアップしていただいた。更に途中で、谷道さんも同乗して、登山口の別当出合へ。そこから3名で砂防新道を登った。

私のこれまでの認識では、《穴田さんは運転免許を持たず、奥さんがいつもどこでも運転》であった。それで、当初、空港から別途出合までの乗合タクシーを予約してあったが、直前に彼から電話があり、びっくり。ピックアップしてもらった次第。私の全くの認識不足であり、実際は、長年の優良ドライバーだったのだ。

25日と27日の両日、彼と一緒に歩いたが、何度か、何名かの知人（教え子、同僚教師など）に偶然出会い、声をかけあっていた。更に、27日の鶴来のレストランでも、知人に会った。知人達の言葉や態度から推しはかると、どうやら穴田さんは、名教師でもあったようだ。エライ男だ。



谷道さん 穴田さん 鍋島
at 甚之助避難小屋

『雨男返上！』を宣言したいね。白山も晴れましたね！

砂防新道は慣れている登山道ではあるが、3人はゆっくりペースで確実に歩を進める方法をとったので、体力的には何ら問題もなく元気よく南竜山荘に到着できた。本日、南竜に集まる予定の他の全員も元気一杯に到着したとのことだ。

それにしても、天気は良いね。晴れましたね。『鍋ちゃんは雨男』といわれているようだが、これで、晴男でもあることが皆さんに分かったことであろう。



行程概略

H24.7.25 (水) 晴

穴田昭一、谷道正晴

鍋島 武

9:00 小松空港

11:37 別当出合発

12:40 中飯場

13:43 別当視

14:40 甚之助小屋

15:23 分岐

16:10 南竜山荘



南竜山荘

白山 登山道 概略



7月26日

展望歩道・アルプス展望台の御来光と頂上お池巡りを堪能!



白山・展望歩道からの北アルプス



御来光と頂上のお池巡りを希望する3名が朝3時半に起きて、活動開始。天気も味方して良好。早起きの者のみが得られる

最高の御来光をみることができ、幸運だね。

初めての展望歩道コースもいいね。北アルプス全貌や御嶽山の展望は、見ごたえがあるね。白山の名花『クロユリ』も出迎えてくれた。

初めての展望歩道に感激!!

行程概略

H24.7.26 (木) 晴

吉村弘二、吉田幸造

鍋島 武

3:45 南竜山荘

4:40 アルプス展望台

御来光

6:00 室堂

7:30 御前峰

お池巡り

8:35 翠ヶ池

9:02 血の池

お花畑コース

10:00 室堂

11:15 黒ボコ岩

12:05 分岐



鍋島

吉田さん

吉村さん



別山





室堂からの御前峰

白山頂上 御前峰！

頂上で、3 人
が満足気に、
カメラにおさ
まる



大汝峰

剣ヶ峰



御前峰からの別山、室堂

冒頭の白山登山の記録でもあるようにこれまでに9回も白山に登っているが、学生時代はオープン山行のボッカ隊中心であったし、OBとしての最近の登山では、雨ばかりであった。そんなことで、何度も白山に登りながら、必ずしも良い印象を持つ山ではなかった。ありふれた山であり、ただ単に地元にある山という感じだけであった。

今回の山行で、初めて展望歩道を歩き、更には初めてお池巡りをして、初めて白山の良さを知ったような気がする。『実に素晴らしい山だ』と心の底から実感した次第である。認識を新たにしました。

これまでは砂防新道の登り降りが主体であるが、今回、展望歩道を歩くことで、北アルプスに対峙できる稜線歩きもできる一級の山であることを感じた。

更に、頂上周辺に、こんなに立派なたくさんの池があるとは思っていなかった。あまりにも認識不足であった。七つの池はどれもこれも素晴らしい感動をもたらす池だ。

『白山って、実に良い山だ』と認識を新たにしました。

白山を知らない登山者に、自信を持って登ることを薦めることができる山である。

山愛好家の皆さん、一度は白山に登ろう！

頂上では、こんな素晴らしい七つのお池巡りができるのだ！

白山頂上 お池巡り



油ヶ池



紺屋ヶ池 剣が峰



翠ヶ池 (遠景) 北アルプス



血の池



千蛇ヶ池

千蛇ヶ池
と五色池
は残雪で
覆われて
いた



五色池



百姓池



黒ボコ岩



7月27日

満是一杯の下山！

7:25 南竜山荘発

10:55 別当出合着

穴田さんと下山し、金沢まで
車で送ってもらった。感謝！

13/07/31
No.137

NewStage60

名峰白山
南竜ヶ馬場

白山登山前にも すごいお楽しみの時間があった！

翌日（7月24日）の白山南竜集中登山のアプローチは、ぜひ一緒に歩こうというメンバーが小松空港に集合。降り立ったのは、千葉在住の博道さんと鍋島の二人。迎えてくれたのは穴田さん。3人一緒の出会は、2007年2月2日（KUWN OB懇親会）以来のようだから、久しぶりの出会だ。

夕方の懇親会までの時間を活用し、穴田さんの車で、加賀大聖寺の『深田久弥山の文化館』に向かった。が、休館日なので玄関での記念撮影のみ。



全昌寺の見学の後、栗津の穴田家に向かった。そこで見たものは、都会の大多数のサラリーマンが定年後の生活として憧れるが、決して手に入れることができないものであった。



都会のサラリーマンが憧れる生活だ！

母屋とは別棟に、広い土間（板間？）と畳部屋が配されており、実際に使われる薪ストーブも備わっている。家の周りにはたくさんの薪も準備されている。家の前方には、自らが耕す広い畑。その向こうには田園が広がり、そして天候次第では、名峰白山も望めるという。

さらに良いのは、穴田さんの伴侶。小松駅近くの『壺』での我々の懇親会にも参加し、山男達の話にもきさくに乗っていただき、会を盛り上げていただきました。穴田さんの幸せ度は上の笑顔の写真で一目瞭然だね。

残念！山の文化館は休館日



全昌寺 風情もありいいね！

その後のドライブの途中で、吸い込まれたように立ち寄ったのが、全昌寺だ。小生は全く予備知識なしに入ったのだが、見学して分かったことは、由緒あるお寺ということだ。

江戸末期の作で総計 517 体の極彩色の五百羅漢像が安置され、境内には、芭蕉と弟子の曾良の句碑が建てられている。奥の細道の行脚中に一泊し、それぞれが句を詠んだもの。何気なく、穴田さんが句を詠みながら解説してくれる。おっ、俺も句が理解できたぞ

国語の先生・穴田さんの解説で 芭蕉を学ぶ

よもすがら

終夜 秋風聞くや うらの山 曾良
庭掃て 出でばや寺に 散る柳 芭蕉



- ・穴田さんはご不幸のため白山登山急きょ不参加
- ・白山登山の様子：別紙記録参照
- ・写真：博道さん提供

WanderVogel

名峰白山 南竜ヶ馬場

2013年
7/24~7/26

KUWVOB 土砂降りの雨の大歓迎を受けて 南竜に集結！



2013.7.24 白山・南竜ヶ馬場 ケビン前



2013.7.25 白山・南竜ヶ馬場 山荘前

俺たちや雨なんかに負けないよ楽しめたよ！

関東地方をはじめ各地域で梅雨明け宣言が続々。今年の白山は晴れるぞ…との期待もむなしく、稀にみる土砂降りの雨。

この雨の中、予定の一人も欠けることなく名峰白山・南竜ヶ馬場に集まったのは、平均年齢 70 歳に近い KUWVOB14 名だ。雨なんかに負けず大いに楽しめたのは、半世紀前に KUWV で、切磋琢磨して鍛えて築いた財産を持つベテラン達だからだ。(それとも、歳をも顧みず、高みを求める単なる無謀高齢登山者かな)

参加者 14 名

(敬称略順不同)

合 津 尚

吉 村 弘 二

山 村 嘉 一

篠 島 益 夫

藤 井 信 晴

伊 豫 欣 二

伊 藤 俊 成

伊 藤 博 道

清 水 一

白 井 勇

鍋 島 武

山 中 重 夫

山 西 久 美 子

山 西 潤 一

初日：7月24日(水)

別当出合～砂防新道を経て南竜ヶ馬場へ

出発から下山まで、個々人の企画と責任で、実施する今回の集中登山。共通項は山村さんが確保した南竜のケビンで、一緒に宿泊することだけ。といっても、偶然か仕組んだかは別として、四つのグループが、別当出合から砂防新道を経て、南竜に登った。



キヌガサソウ

第一グループ 《早出、早着き》山原則順守派…5名

前夜は、金沢で一杯やりながら結団式。その結団式に参加したうちの5名。合津さん…仕事、地元での野菜作り、ウルトラマラソン、山、まさに老い知らず。吉村さん…若い頃雪の白山にも挑戦し、今なお白山大好きな南竜PWの常連。山村さん…この人がお世話をしてくれるからこそ、毎年南竜に来るという者も多い、南竜リーダー。信晴さん・山中さん…若い頃から今日まで、常に山を登り続け、百名山も完登したKUWVOBのお手本、真の山男。

山村さんが朝早くマイカーでメンバーをピックアップ。7時前に別当出合に到着。7時半には、土砂降りの雨の中を黙々と歩きはじめていた。歩道は水があふれ、沢登りのようだ。不動滝、甚之助谷、万才谷は濁流とその轟音で、怖いくらいだ。とにかく南竜に着くまで、雨で、びしょぬれ状態。

別途出合 7時40分発 → 南竜ヶ馬場 11時20分着

第二グループ 《ゆっくりペース》山原則順守派…5名

白井さん…ようやく企業経営の重責から解放されて、再び山に向き始め、南竜に初参加。博道さん…ゴルフ場のウォーキングに加えて、今年から山にも参戦、南竜初参加。俊成さん・清水さん・鍋島も、サラリーマン卒業後に山歩きを復活した年金高齢登山家。



偶然にも朝9時頃に別当出合に集結したのが、この9期の5名。とにかく《ゆっくり》と、一定のペースで確実に歩を前に進める。重い荷物は仲間うちで分かち合う。半世紀前から培った同期のチームワーク発揮だ。天はこの仲間達をしっかりと見届けたのか、土砂降りの雨も甚之助小屋を越える辺りからあがり、同時に登るペースも順調に上がってきた。

別途出合 9時30分発 → 南竜ヶ馬場 15時着

余談話 9期千葉5人組

電車で30分圏内の千葉県内に、9期の5名(清水、博道、俊成、鍋島、今回欠席の洋次郎)が年金生活を送っている。

懇親会、ゴルフ中心に付き合っているが、今年から山歩きも始めた。春には名峰筑波山で足腰を鍛え、南竜に備えた。

余談話 近畿支部の重鎮

近畿支部の活躍は独自のホームページでも紹介されている。その支部の創設に関わっているのが、篠島さん、伊豫さん。もちろん今も積極的に参加している重鎮だ。

第三グループ 《スピード》派…2名

篠島さん…百名山も完登し、幅広い山の活動を続けているベテラン山愛好家。伊豫さん…登山道で会う人毎に激励の声や団扇で涼しい風を送り喜ばれ、同時に同僚たちを引っばる本格的ワンドラー。

近畿から車に同乗して駆けつけた。最近はやりのトレイルランには及ばないものの三時間位で別当出合・南竜を平気で歩いてしまう2人。二人の馬力は雨をも蹴散らしてしまうらしい。遅い出発が功を奏したのか、雨には降られなかったとのこと。

別当出合 → 南竜ヶ馬場 15時過ぎ

第二日目:7月25日(木)

二日目も残念ながら雨模様。それぞれのワンデリング計画もむなしく中止。白井さんと山中さんが下山し、山西夫妻が雨の中、南竜に合流。

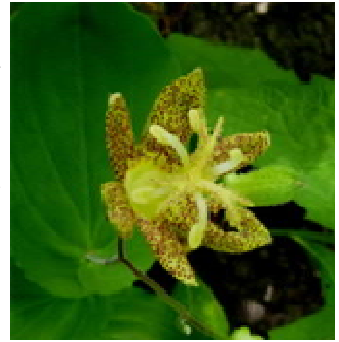


25日に合流した山西夫妻

25日に下山した山中さん 白井さん



タマガワホトトギス



第四グループ 《自立・夫婦共生》派…2名

山西夫妻…それぞれが高いレベルの仕事・責任を現役として果たし、同時に二人とも山登りをも実践されている。ワンゲルのお手本夫婦。

雨の中の登山であり、甚之助では雷も鳴っていたという。奥様は休憩(仮眠?)中で、雷を聞いていない模様。立派な旦那さんなので安心だね。

雨で沈殿 高齢者用カフェ『南竜』でダベリング!

南竜に沈殿したメンバーは、ワンデリングもやらず、ごろごろ。ケ빈は昨日同様、高齢者用カフェ『南竜』という感じで、終日ダベリングだ。カフェオーナー合津、支配人山村、シェフ伊豫、その他はカフェの常連客…という役割設定が自然と出来上がった感じだ。伊豫シェフの最高のお

もてなし精神には驚きですね。自分で持参した火器、コップ、食材で、我ら常連客を楽しませていただきました。合津オーナーが自分の菜園で育てたキュウリもおいしいね。

吉村さんの語る『高架橋建設と地主交渉』の実態も面白く、退屈しませんね。



篠島先輩はこのカフェを一時間程度抜けだし、ワンデリング。花写真撮りだ。

ところで、9期生は、何をしたの。『はい、先輩のおもてなしに遠慮なく甘えていました。水汲みとごみ整理くらいかな。美味しいおつまみに、うまいお酒。良いカフェだ。毎日通いたくなるね』



カフェ『南竜』の様子 (7月24日)



宿泊はケビンで、夕食・朝食は南竜山荘で楽しむ。行儀よく乾杯!

自然解説員さんは 何かとご縁のある花ガール

二日目の夕方、みんなで南竜ヶ馬場の自然解説員さんの案内による自然観察に出かけた。我ら自身の山の経歴からいえば、解説する立場でも通用しそうでもあるが、数名を除いては、花の知識レベルからいってその資格はない。知識と経験豊富な解説員の説明をまじめに聞いて、『うん、うん』とうなずいた次第。

驚いたことは、解説員（花ガール）2名とのご縁。お一人は、KUWVOBのあの奥名さんの奥様です。もうお一人は、山村さんのご近所さんの根上さん。

ところで、皆さん『ウズラバハクサンチドリ』はどんな花か覚えていますか。次の白山登山までは、覚えておいてね、またその漢字名も覚えてね。



ウズラバハクサンチドリ

山西久美子先生の健康講座 at 南竜カフェ

一週間に一度の山登り 健康問題のすべて解決！

山西さんは定年退職も近いとのこと。退職後の山登りには相当に期待を抱いていらっしゃる。《一週間に一度山登り》をすれば、世の方々が悩んでいる健康問題をすべて解決する『究極の有酸素運動』だ。特に次の内臓脂肪に関連する病は吹っ飛ぶとのこと。

①高脂血しょう ②高血圧 ③耐糖能障害

筆者追記…久保田競（京大名誉教授）

曰『週1回3時間の山登りを3カ月続けると前頭前野の容量が増し、賢くなる。学校の成績向上も期待できる』



ミヤマキンポウゲ

特別寄稿

雨と濃霧に感謝！

9期 伊藤 俊成

ものは考え様。雨と濃霧でしか得られなかった喜びの事実です。

1. バテずに済んだこと

夏の暑さを感じさせない登り、濃霧による御来光見物の中止と、口ほどではない我が身を晒さずに済みました。

2. 投資のいくばくかの回収ができたこと

昨年新調したレインウェアの利用機会が初めて訪れ、大いに性能を発揮。未使用のままお蔵入りという悲劇を止めてくれました。

3. 「沈殿」という死語が蘇ったこと

あっという間に40数年前にタイムスリップ。歌声は響かなかったけれど、先輩方の変わらぬ会話や一瞬の晴れ間から見た満天の星空も懐かしかった。

楽しい3日間ありがとうございました。



余談話

◇奥名解説員「この花は先程説明した花ですが、……」
俺、花の名、覚えていないよ。

◇山西先生の講義を聞きながら、カナと自分流の記号でメモをする。漢字が思い浮かばぬ小生を見かねて、講師が漢字に書き換えてくれる。

白山に登れる体力はまだあるが、頭が衰えたな。（君は昔からそうだよ…の声も）
（皆さん、山西先生の講座を信じて、山歩きを続けましょう）



シモツケソウ

第三日目:7月26日(金)

ご来光も見れず ゆっくり下山へ

昨晚段階の計画では、①展望コースで御来光を見る、②展望コースから御前峰を目ざす…の二つのワンデリングコースが設定された。寝る前は、空は満点の星。夜中には、窓から月明かりも差し込んでいた。明日のワンデリングを楽しみにして、寝込んだ。

午前3時15分起床。無残にも、南竜ヶ馬場は深い霧で覆われている。御来光は全く期待できず、ワンデリング計画は中止。本日は、みんな一緒に、砂防新道を下ることになった。山西夫妻はお二人だけで、別行動・下山へ。

別当出合に無事下山 天気：晴



南竜道と砂防新道の合流点からの別山

膝を痛めぬように、小さなステップで、慣れている砂防新道とはいえ、慎重に下りる。

それにしても、皮肉な天気だ。下るにつれて、晴れてくる。別当出合に着くころは、真夏の陽射しに戻っていた。

南竜ヶ馬場 7時発 → 別当出合 11時着

.....

**『5年後に 南竜ヶ馬場に集まる』を全員で誓う！**

五年前の KUWVOB 総会後の二次会で、山村さんから酔っ払い相手に、南竜集中 PW が提案された。それから5年間、70歳前後の高齢者による南竜集中登山が、無事に、確実に、毎年実行されてきた。

山村さん 新たな提案

今回の PW 二日目の夕食後、山村さんから新たな提案がされた。

『5年間続いた PW をひと区切りにしたい。次は、5年後に南竜ヶ馬場に集まろう。5年後にまた私が呼びかけます』

この5年間の山村さんのお世話に感謝し、5年後の山村さんの呼びかけ・お世話に答えて、南竜に来るぞ…と、全員が誓った。

8期 山村 嘉一

創部50周年の二次会の快気炎から実現した『KUWV OB 南竜集中PW』も、今回で5回を迎えることができました。若かりし頃のワンゲル活動の思い出を手繰り寄せ、青春時代のあの“ワンゲル”に浸れるひと時を持てないものかと、白山は南竜に集まる事に話がまとまった訳です。ケビンの予約や参加者を募ったりして、ささやかなお世話をしてきた山村ですが、あとふた月で71という歳でもあります。今回を一区切りとして、次は5年後に南竜集中 PW を呼びかけます。

これまでやりくりして多数ご参加頂いた方々、参加はできずとも色々ご支援して頂いた方々に、厚く御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。来年は伊藤俊成さんがお世話して下さいということで、大変心強く思っております。これからも皆さんがいつまでも元気でこのPWが続くことを祈っております。



ガクアジサイ

来年も集まりたい！

『5年後の南竜』が決まった後に、5年も待てないという声も強く出た。その声に応じて、9期千葉組を代表して、伊藤俊成さんが、5年後の南竜への繋ぎとして、来年の南竜PWをお世話することに決定。



コバイケソウ

写真：山村、篠島、鍋島
記録：鍋島

KU WanderVogel

名 峰 白 山
南 竜 ケ 馬 場

2014 年
7/28~7/30

ヤマジイージ 元気はつらつ 名峰白山を歩む

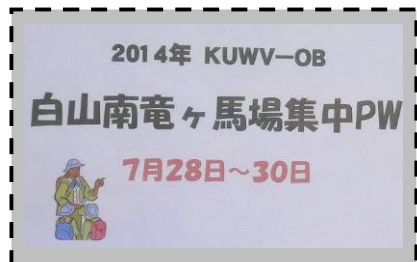
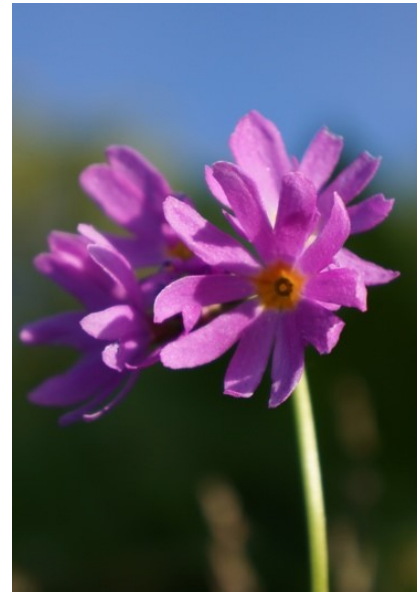
ヒント《昭和 21 年生れが最も若い。10 名の高齢者グループ》
このヒントから、何を想像しますか。

- ー 町内会の敬老会に招かれたおじいちゃん・おばあちゃん
- ー デイサービスの送迎バスで静かにしている要介護者と、答えるのが一般的解答かな。でも今回に限っては、的外れ。正解は、《白山を元気に登る KUWV・OB グループ》

名峰白山の登山道を、立派な登山靴をはき、カラフルな最近のザックを背負い（キスリングではありません）、全員が整然と統制のとれた隊列を組み、元気に歩く山仲間グループだ。その後姿は、日頃から訓練されたどこかの現役山岳会を思わせる。

ザックをおろし、腰を下ろし、水で一息つく顔を覗き込むと、その正体はヤマジイージ（山爺）。この顔は、町内会の敬老会やデイサービスのバスの中でも似合う年代。だが実態は、《元気はつらつのヤマジイージ集団》だ。

彼らを正面からとらえた写真（下）で見れば、50 年前の紅顔の美少年達も、白山のハイマツのように、永年の風雪に耐えた顔つきに変貌しているね（正しくは、成長しているね）。



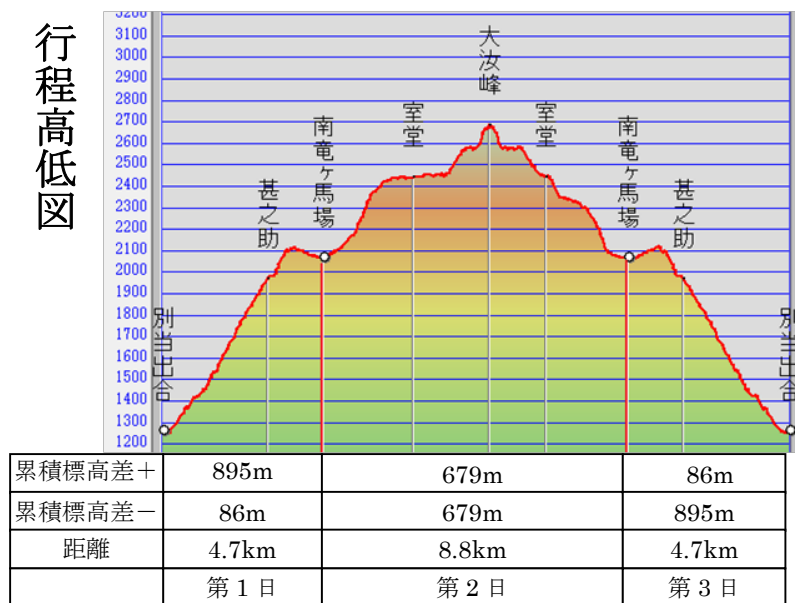
室堂と別山



ウソ 7.28 at 南竜

(この行程図は、二日目に大汝峰のコースを歩いたグループの三日間の行程図である。)

行程高低図



右の写真は、最終日の下山途中で撮ったもの。みなさん、天気にも恵まれ、3日間の白山南竜 PW を十分に楽しみ、満足した感じだ。

その楽しかった PW の様子を次ページ以降に記載。その状況が的確に伝えられるかどうか心配だ。

満足な顔で下山



行程概略

7月28日(月) 晴

別当出合→南竜ヶ馬場(泊)

・各自自由に南竜に集合

①午前派：合津・山村

伊藤・白井

②午後派：穴田・伊豫

吉田・島林・鍋島

7月29日(火) 晴

ワンデリング(自由行動)

・各自が希望コースを設定選択

・3グループに分かれる

①大汝組(早出組)

山村 鍋島

②大汝組 残り全員

③別山組 島林

・吉田下山 山中合流

7月30日(水) 晴

南竜ヶ馬場→別当出合

全員一緒に下山

参加者 10名

(敬称略)

(前頁写真 前列左から)

①伊藤俊成 9期

(PW 幹事長)

②島林仁司 10期

③山村嘉一 8期

④合津 尚 6期

(前頁写真 後列左から)

⑤穴田昭一 8期

⑥鍋島 武 9期

(記録・報告担当)

⑦白井 勇 9期

⑧伊豫欣二 8期

⑨山中重夫 9期

(前頁写真 右窓)

⑩吉田幸造 9期

写真提供者(敬称略)

山村嘉一 穴田昭一

伊藤俊成 島林仁司 鍋島武

誠に貴重な写真をご提供いただき、感謝申し上げます。写真一枚一枚に、撮影者を明記すべきですが、ご容赦願います。

第1幕



「あっ 流れ星だ」

「あれが北斗七星」

「天の川を見るのも久しぶりだ」

「北斗七星のひしゃくの先端部分の長さの 5 倍くらい先に、北極星が見つかるよ」

「こんな素晴らしい星空は、いつ以来からだろうかな」

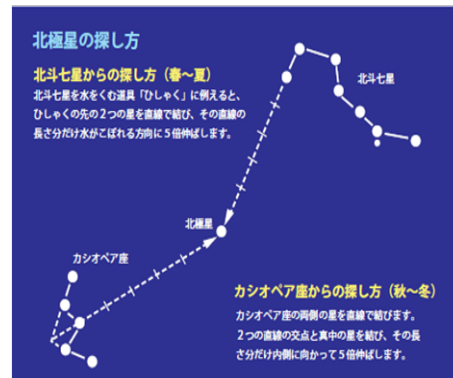
南竜馬場ヶ原の夜は足元を照らすものもなく真暗闇。わずかに吹いている風音以外は何も聞こえず、まさに静寂の世界。

眼を空に転ずれば、満天の星。

平素は野暮な KUWV/OB の山男達も、この南竜にたたずみ、星空を見上げれば、ロマンを感じずにはおれないであろう。この星空をじっと見上げていると、宇宙の彼方のずっとその先に、吸い込まれてしまうような気分になってしまう。



南竜ヶ馬場の夕焼け
この後、空に、満天の星が



大田原市天文館ホームページから

第2幕



第二日目午前3時起床。昨晚、みんなで感動した満天の星空が今なお輝き続けている。ヘッドランプで足元を照らす男二人（山村、鍋島）。1時間の急登の末、展望コースの尾根・アルプス展望台に到着。

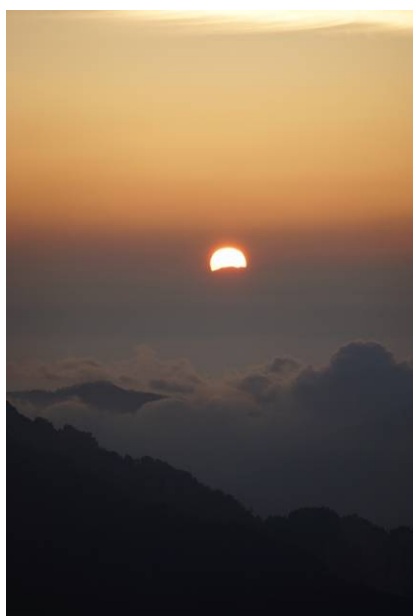
山シャツの上に、フリースと更に防寒具を重ね、冷たい風を避けるためにハイマツの陰に身を寄せる（下界の猛暑は白山までは届かない）。

太陽が昇るはずの北アルプス方向は、雲に覆われている。北アルプスの展望は期待できない。ただその雲の上は、青空のようだ。ワクワクしながら、我が太陽が顔を出すのを待つ。

その雲が徐々に赤みがかってきた。間もなくだ。そして、遂に。

ご来光！

ああ 何と清々しい気分なのだろうか



日の出直後の荒島岳

第3幕



見つめてごらん 白山の高山植物を

「名峰白山、何が素晴らしいか」

「そりゃ、花でしょう、高山植物の宝庫だよ」

展望コースを室堂に向けて歩く。

登山道の脇にカラマツソウ。左をむけば、朝日に踊るハクサンコザクラ。眼を前に向ければ、朝日に輝くクロユリ。きれいな花、かわいい花が、いきいきとした花が、次々に飛び込んでくる。

数株ずつ咲いているものもあれば、ハクサンコザクラの大群生もある。花を見つめ、花に見つめられ、「オオッ」「オオッ」と感嘆の声。

カメラマンの心は躍る。パチリパチリ、シャッターを押す指がとどまることがない。

展望コースに限らず、白山はどこを散策しても花いっぱい季節だった。





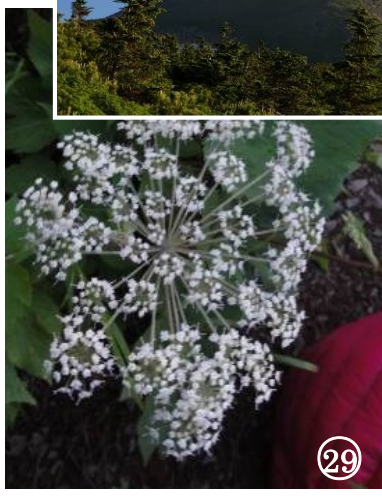
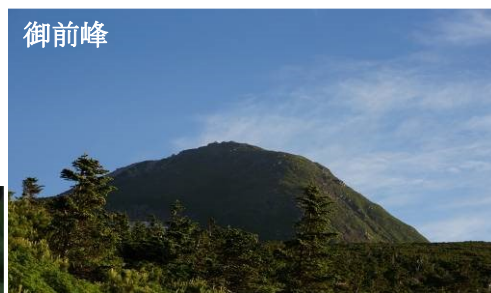
きれいだ！

かわいい！



白山の高山植物
の種類、幾つあ
るの？





花の楽園とは白山のようなところをいうのかな



第4幕



登ってごらん 大汝峰を



百姓池と大汝峰



大汝峰頂上の大汝神社

大汝峰

白山に行き頂上を目指す場合、足は自然と御前峰に向かう。白山の頂上＝御前峰というのが一般的なイメージであろう。大賑わいの御前峰に比べれば、一緒に並んでいる大汝峰がちょっと可哀そう。

今回の PW 参加のメンバーも御前峰は何度も登っているが、隣の大汝峰への回数は少ない。…ということで、今回のメンバー



(大汝峰頂上から) ミドリヶ池 剣ヶ峰 御前峰

の足は自然と大汝峰方向に向かう。

登ってみて感じたな。大汝峰って、良いじゃないか。頂上の大汝神社に静かに頭をたれ、人影も少ない広い頂上で、展望を堪能。

大汝に登ればこそ見ることができる絶景もある。それは上の写真の風景だ。

第5幕



堪能してごらん 北アルプス遠望を

大汝峰に向かって、最後の詰めをしている時に、山村さんが後を振り返って、「オー」と歓声を上げた。北アルプスの遠望が見えたのだ。



ご来光の折、北アルプスは雲の下であった。今日は見えるとは思っていなかった。まさに突然の出会いだ。

乗鞍 御岳も見えたぞ

北アルプスの遠望の更に右方向に、乗鞍岳、御岳も見ることができた。



第6幕

登ってごらん 別山に

第二日目の行動は自由ワンデリング。結果的には、3 グループに分かれての行動(2頁『行程概略』参照)。

その一つが、別山往復だ。メンバーは島林さんのみ。単独行だ。今シーズン既に白山登山を実行し、御前峰方面を歩いたとのことで、今回は、別山を選んだようだ。

彼の感想によれば、『別山最高!』とのことで、別山の虜になった模様だ。



天池の日の出



33



御手洗池と別山

別山平は一面のニコウキスゲ



特別寄稿

若い頃は奨学金で今は年金で山登り

今回も白山南竜 PW は、ほぼ平均 70 歳の高齢者ばかり。でも元気だよ。そう年寄り扱いをするなよ。

俺達も半世紀前は若かった。金大ワングル部所属。勉強もほどほどに、クラブ活動に熱中。日本育英会の貴重な奨学金を教科書代・参考書代ではなく、そのほとんどを山行き資金に投じてしまった輩だ。

サラリーマン時代は山も忘れ、心身を削りながら厳しい仕事とお酒に専念。ただ幸いなことに、定年退職時には、身体を壊していなかったこと、借金をしていなかったことが良かったな。

高齢者の仲間入りした彼は、今何をやっているのだろうか。貴重な年金を使って、再び山登りだ。

ある日の夕方、奥多摩の登山口(五日市駅/東京都)で、家路を急ぐワーキングウーマンが呟いている。

『あのおじさん達、下山して、一杯飲んだようね』

『悩まないのかな。楽しそうね』

『私達、忙しいのよ。遊ぶ時間もお金もないわ』

『私達、将来年金貰えるかしら』

現役組のそんな冷たい視線、思いも理解できないわけではない。ただ、俺達は登るぞ、続けるぞ。体そのものの健康もさることながら、ボケ防止には山登りが最適…と言訳を心に秘めながら。あと 10 年くらいは登りたいね。せめて東京オリンピック位までは登るぞ。その意味を込めて、東京五輪のマークをもじったのが、下のマークだ。

東京五輪の2020年も山登りだ

振り返ってみれば、前回の東京オリンピックの時(1964年)は、ワングル 1 年生だった。次回東京オリンピックは、ワングル最終学年か…。



《マークにつき、少々解説》

- ① 槍ヶ岳から登る朝日(2012年8月8日笠ヶ岳小屋)
- ② ワングルらしく「continue wandering」にしようと思ったが、認知症の徘徊(wander)のイメージに誤解されても困るので、やむなく「climbing」とした。

あるワンダラーNabeshima の呟きでした。ご勘弁を。

第7幕



鍛え直してごらん 我が老体を

最高齢は合津さん。しかし肉体的には最も若い感じだ（頭脳・気力面もそうでしょう）。

頑健な合津リーダーが、花よ蝶よと育てられた貧弱な身体の新入部員を鍛えている…そんな50年前の新トレ風景を思いおこす場面が、今回の白山南竜PWにも見られた。

(1) 休憩場所

新人：《この中飯場は休憩に最適の場だ。休憩だろうな》と心の中で期待。

合津：休憩の気配、全くなし。

新人の期待は見事に裏切られ、中飯場で休むこともなく通過だ。

(2) 休憩タイミング

新人：「熱中症対策にこまめに水が必要だ」と暗に休憩を催促する声を出す。

合津：「もっと先に、良い休憩所があるぞ」

休憩も逸して、その先の万才沢まで進む。

合津さんは、今なおマラソン大会（フルマラソン、ウルトラマラソン）、テント泊の南アルプス縦走、農作業…をやっている。その所為か、いまだに若々しい。

俺も体づくりやるぞ

さて俺達も、健康寿命を一層継続するためにも、日常的に積極的に体づくりをしなければならないね。高齢者向けのラジオ体操、ストレッチ、頻繁な山歩き……。KUWVの現役時代に鍛えた財産（体力）は、サラリーマン時代に使いつくしているからね。

最長老の軽快なステップ！



第8幕



取り戻してごらん 山男の輝きを

砂防新道では、登り下りの登山者で一杯だ。狭い登山道なので、すれ違いのために道をお互いに譲り合う。

すれ違いの登山者を観察してみると

☆小さな子供連れ家族 ☆山ツアーグループ

☆山ガール達（年齢不詳）

☆夫婦（らしき） ☆恋人達（らしき）

☆九州からのおばさん二人組

逆に我がパーティもしっかり観察されているようだ。心の中では次のように感じているのかも。失礼にも、正直に声を出して言う者もいる。

★ウワッ、男ばかりのグループだ

★しかも高齢者軍団だ

★何のグループなのかな。不思議な人種だ

★ちょっと異様かもね

それにしても、山ガール（もどき）がもてはやされ、ヤマジージはなぜ拍手されないの。山男軍団は山に似合わない存在になってしまったのだろうか。輝きを失ったのだろうか。



ヤマジージ自信を持って十分に輝いているよ

わが身を省みて、変えるべきところは変えるよ。ただ、半世紀も続く山男軍団だ。どのように観察されようが、我らは楽しい山仲間。この山男仲間はこの世から消失させないよ。来年もこの《ヤマジージ》スタイルで、白山にやってくるぞ。

第9幕

見習ってごらん先輩のおもてなしを

昨年の PW 報告レポートにも記載したが、今年も同じような《もてなし》の構図が見てとれた。

①朝の目覚めのコーヒ、行動中のコーヒ、夜のミーティングでのコーヒ、②行動後のそうめん、③差入れのメロン…おもてなしをするのは、昨年同様先輩の方達だ（下の写真参照）。

若手の9期達は、今年も進歩はみられず、先輩に甘えるばかり。先輩に、ポンポンと何かと注文をつける。合津先輩から『そうめん』のおもてな

しをいただいた時には、『薬味は…』とせがむ。厚かましい態度は相変わらずだ。

この際、報告レポートの紙面をお借りして、申し上げます。

「先輩のみなさん、ありがとうございます。心から感謝しています。尊敬しています」

「私達は、次々と減らず口をたたくばかりです。申し訳ありません。反省しています」

(追) 影の声

(先輩方) 9期奴らはいつも感謝・反省を連発するが、付きあって半世紀の間できなかったことを今更期待できないね。

(9期生) そうですね。半世紀もお世話になっています。このまま後10年くらい、よろしくお願いします。



休憩時間中も後輩達のために、おもてなし準備の二人（合津 伊豫）



美味しい食材を冷やすために、雪渓の雪を集める合津先輩。後輩達はただただポケットに手を突っ込み眺めるばかり。先輩の模範行動も後輩には手本にならず。



おもてなし講座『そうめん料理』を特訓受講中の若手。島林さんの言によれば、白井さんの手つきは相当なレベルらしい。老後の自活は心配いらないね。



伊豫先輩はいろんな場面でおもてなし精神を発揮。だから後輩からも親切にされるようだ。

第14期の仁藤さん(旧姓: 矢津さん)から伊豫さんにメロンが差し入れられた。(左写真)

おもてなし NO1! この写真、ちょっとこわ面だが、本当はやさしい山男



(私達 食べる人)

美味しいメロンだ 仁藤さん ありがとう

第10幕

 覚えてごらん 白山の花の名を

「馬の名前も知らないで、馬券を買うな」「その馬に賭けるのなら、馬の名前くらい覚えろよ」…その昔、組合の多趣味の専従書記長が、馬の名も知らないで馬券を買いに行く若い組合員を叱っていたね。

素晴らしい縦走路のお花畑で、「この花の名前、知っているか」と、よく聞かれるね。返事は「エーと」。

花の名、馬の名は知らないが

名前を知らなくても、きれいなものはきれい。名が分からなくても、縦走路の高山植物を見れば、心楽しくなるよ。感動もするよ。(馬の名前が分からなくても、勝ち馬の予想はできるよ。当たるよ。)

勝手な屁理屈をいうおじさんだが、勤めていた

頃は、お客の名、顔…を必死に覚えたな。確実に覚えたよ。花名はダメだが。

さて、馬自身や花自身はどう思っているのだろう。

「精一杯は走っているのだよ、君の馬券が的中するように。せめて、俺の名前くらい覚えてよ」

「この短い夏の一時期だけ、一生懸命に咲いているのよ、あなたを励ますために、感動させるために。私の名前くらい覚えてよ」…と、馬や花が嘆いているよ。

馬にも花にも立派な名前があるよ。覚えてあげようぜ。年金おじさん達のボケ防止対策としても、すごく有効かも。(すぐに忘れると思うが。)

花に感謝して花の名前を見てあげよう!

花の写真提供者のご協力でリスト作成

花の検定問題

この報告書(記録)に、今回の白山南竜 PW で見た花の写真に番号を付けて、掲載してあります。その花名リスト(未完成版)は、右の通りである。

問題 A 花名リストを見ずに、幾つの花名を答えられますか

問題 B 穴埋め問題：花名リストで名前が記載されていない欄に、その花名を記載してください。

問題 C 正誤問題：花名リストで名前が正しくない場合、正しい名前を記載してください。

お願い

この PW に参加したかどうかに関係なく、この報告書(記録)に眼を触れた方に、お願いします。

- ① 上の花の問題 B、C に、お答え願います。
- ② この報告書(記録)の読後感をお知らせ願います。

答え先：nabeshima2828@nifty.com (鍋島武)

《花名リスト》(未完成版)

- | | |
|------------------|---------------|
| ① カラマツソウ | ⑲ ニッコウキスゲ |
| ② ハクサンコザクラ | ⑳ |
| ③ クロユリ | ㉑ ハクサンフウロウ |
| ④ イワギキョウ | ㉒ カラマツソウ |
| ⑤ ヨツバシオガマ | ㉓ クモマニガナ |
| ⑥ ベニバナイチゴ | ㉔ シモツケソウ |
| ⑦ アオノツガザクラ? | ㉕ エゾシオガマ |
| ⑧ ナナカマド? | ㉖ オタカラコウ |
| ⑨ イワカガミ | ㉗ シナノキンバイ |
| ⑩ クロユリ | ㉘ ウズラバハクサンチドリ |
| ⑪ ハクサンコザクラ | ㉙ ハクサンボウフウ |
| ⑫ ハクサンコザクラ | ㉚ ミヤマダイモンジソウ |
| ⑬ ハイマツ | ㉛ ハクサンシャクナゲ |
| ⑭ コバイケソウ | ㉜ トラノオ |
| ⑮ ハクサンコザクラ
群生 | ㉝ ウツボグサ |
| ⑯ チングルマ | |
| ⑰ ゴゼンタチバナ | |
| ⑱ ハクサンフウロ | |

以上で、白山南竜 PW 報告終了です

KU WanderVogel

花の検定問題 模範解答で復習だ

8月15日に発信しました『KUWV 白山南竜 PW2014』第10幕(12頁)に、花の検定問題が載っております。

その問題 B、問題 C の模範解答を右に掲載します。

問題 B 穴埋め問題：花名リストで名前が記載されていない欄に、その花名を記載してください。

問題 C 正誤問題：花名リストで名前が正しくない場合、正しい名前を記載してください。

奥名さんに教えていただきました

奥名さんに、問題 B、問題 C につき、ご教授をお願いするメールを発信しましたところ、折り返しメールが届きました。誠にありがとうございます。

既にこの検定問題に挑戦し、花名の記憶に取り組んでいる方がいます。そして、正しい名前の早期の提示を望んでいます。

そこで、奥名さんのご協力がありましたので、早速、模範解答として発信することになります。みなさん、安心して、覚えてください。これで、間違いを覚える恐れがなくなりましたから。(8月16日)



模範解答

模範解答：下記の吹き出し図に示したもの

模範解答者：奥名正啓先生

KUWV・OB ホームページ管理者

《花名リスト》

模範解答 ↓

- ①カラマツソウ
- ②ハクサンコザクラ
- ③クロユリ
- ④イワギキョウ
- ⑤ヨツバシオガマ
- ⑥ベニバナイチゴ
- ⑦アオノツガザクラ?
- ⑧ナナカマド?
- ⑨イワカガミ
- ⑩クロユリ
- ⑪ハクサンコザクラ
- ⑫ハクサンコザクラ
- ⑬ハイマツ
- ⑭コバイケソウ
- ⑮ハクサンコザクラ群生
- ⑯チングルマ
- ⑰ゴゼンタチバナ
- ⑱ハクサンフウロ
- ⑲ニッコウキスゲ
- ⑳
- ㉑ハクサンフウロ
- ㉒カラマツソウ
- ㉓クモマニガナ
- ㉔シモツケソウ
- ㉕エゾシオガマ
- ㉖オタカラコウ
- ㉗シナノキンバイ
- ㉘ウズラバハクサンチドリ
- ㉙ハクサンボウフウ
- ㉚ミヤマダイモンジソウ
- ㉛ハクサンシャクナゲ
- ㉜トラノオ
- ㉝ウツボグサ

①花だけでは判定不能。**モミジカラマツ**かも

⑦**アオノツガザクラ**で正解

⑧**ウラジロナナカマド**

⑳ **ヤマハハコ**

㉑ **ハクサンフウロ**
最後尾の『ウ』不要

㉓ **ウラジロナナカマド**

㉜ **イブキトラノオ**
(由来：寅の尾のにおい。一度お試しを)

㉝ **タテヤマウツボグサ**及び**カライトソウ**

追補版

第2日目は朝3時から終日、山村さんと鍋島のコンビによる自由ワンデリング。

《行程》 南竜ヶ馬場ケビン（起床3時）→ アルプス展望台（ご来光）→ 展望歩道（お花堪能）→ 室堂（朝食）→ 百姓池 → 大汝峰→ 室堂（後発の大汝峰散策組を待ち合流）→ エコーライン→ 南竜ヶ馬場

二人のワンデリング状況は、既に記載第2幕、第3幕、第4幕、第5幕の通り。



ご来光をねらうカメラマン

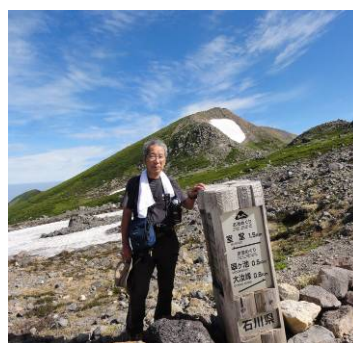
朝3時起床、そして重いカメラを担いでの急登1時間…だからこそ実現できるシャッターチャンス。『今日のご来光の写真、出来栄えは期待できるぞ』と安堵と満足の顔だ。

ワンゲル仲間はこの右の男を雨男と呼ぶが、この男を雨男と誰が信じようか。

ご来光を仰ぎ、満足そうなこの顔。世の中の一番の幸せ者はこの俺だぞ…と本人は言いたげだ。



かわいい花を求めて半世紀
今日も俺は行く



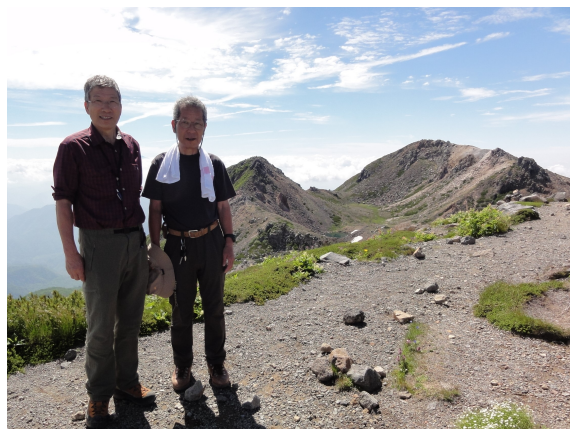
はいポーズ。これで良いのだ。



大汝が見ている前では、派手なポーズは不要。



「俺のカメラでは、あの北アルプスの遠景は無理だろうな」それでも撮ってみる諦めの悪さ。



大汝峰に登ればこそ、撮れるこのアングル
右：御前峰
左：剣ヶ峰

大雨のため 南竜ケビンで沈殿を楽しむ

2015 年 7 月下旬、10 名のワンダラーが元気に南竜に集合。この白山南竜 PW につきものの雨にたたられ行動は狭まれてしまった。ケビンに閉じこもって、沈殿を楽しむことになった。



別当出合に無事下山 雨でも満足できたぞ



参加者

(後列左から)

8 期 伊豫欣二

9 期 山中重夫

(中列左から)

8 期 穴田昭一

8 期 野村孝弘

6 期 合津 尚

6 期 池田 進

8 期 山村嘉一

(前列左から)

8 期 篠島益夫

9 期 伊藤俊成

8 期 高水間淑子

KU Wandervogel

名 峰 白 山
南 竜 ケ 馬 場

2016 年
7/26~7/28

俺たちや 徘徊老人ではない
山を楽しむハイカーだ



2016.7.28
at 南竜ヶ馬場

参加者全員 70歳を越えた

俺たち全員はとうとう70歳を越えた。
半世紀前は、山々を若々しく歩きまわる KUWV の部員だった。今や、平坦な舗装道路のウォーキング中にも転んで医者通いをするものもある。参加者の集合写真(上)を見ても、若さはどこにも感じられない高齢者パーティーだ。

そんな彼らが、なぜ白山・南竜に毎年集まるのかな。白山は、そんなに魅力的な山なのかな。

白山の魅力というよりは、半世紀前に一緒に遊んで学んだアイツらに会いたいからだ。今年も会えた。うれしい。

参加者 12 名

(敬称略 順不同)

- ① 合 津 尚 6 期
- ② 山 村 嘉 一 8 期
- ③ 伊 豫 欣 二 8 期
- ④ 穴 田 昭 一 8 期
- ⑤ 篠 島 益 夫 8 期
- ⑥ 黒 崎 史 平 8 期
- ⑦ 高 水 間 淑 子 8 期
- ⑧ 伊 藤 俊 成 9 期
(今回 PW の幹事長)
- ⑨ 白 井 勇 9 期
- ⑩ 山 中 重 夫 9 期
- ⑪ 保 田 敦 9 期
- ⑫ 鍋 島 武 9 期

行程概略

7 月 26 日 (火) 雨

別当出合→南竜ヶ馬場
(砂防新道経由)
個々に南竜に向かう

7 月 27 日 (水) 曇

(自由行動)

- ① 別山往復 2 名
- ② 植物観察 2 名
- ③ 室堂往復 8 名

7 月 28 日 (木) 晴

南竜ヶ馬場→別当出合
(砂防新道経由)
全員一緒に下山

第1日目

白山は今日も雨だった



あーあ はくさ んはー きょう も あめー だったー

北陸の梅雨は明けた 夏本番だ

『梅雨明けも宣言された。今年の南竜 PW の天気は良いぞ』
『展望コースで、北アルプスから上がるご来光も楽しめるぞ』
『今年の夏山第一弾はついているぞ』

ニコニコ顔で、ワクワクする心持を抑えながら、ザックに装備・食料を詰める。

白山は強い雨で KUWV・OB を出迎えた

だが、現実には、例年の南竜 PW のように雨。しかも土砂降りだ。砂防新道からみる不動滝にはものすごい量の濁流だ。怖い感じだ。

『梅雨明け 10 日間は好天』の理論は嘘なのか。

その雨の中、参加者それぞれが、登山口の別当出合から砂防新道経由で、南竜ヶ馬場に向かった。

グループ A: 伊藤俊成 保田敦

金沢育ちのイケメン爺さん。故郷金沢に前泊して、保田車で別当出合へ。ゆっくり確実に歩こうということで、山歩きの原則『早立ち・早着き』を実践した。

単独行 1: 伊豫欣二

体力、気力は抜群。KUWV・OB の田中陽希だ。コースタイム並みに歩いて南竜に到着。

そこからがすごい。(囲み記事参照)

単独行 2: 白井勇

三重の自宅から別当出合まで、マイカーでの長距離運転だ。まだまだ老けこむことなく、南竜 PW に参加。堅実な足取りで、甚之助、南竜ヶ馬場へと進む。意外に歩けるぞ…と自信を持ったのではないのでしょうか。

グループ B: 合津尚 山村嘉一 山中重夫
穴田昭一 黒崎史平 鍋島武

早朝に金沢についた合津さん、山中さん兩名を、山村さんが車でピックアップして、別当出合へ。一方、穴田さんと穴田家に前泊した黒崎さん、鍋島の 3 名が、穴田さんのドライブで別当出合へ。山村車、穴田車がほぼ同時刻に別当出合に到着。

合流した 6 名が、砂防新道を歩く。高齢者の 6 名だが意外に元気だ。6 名の隊列は乱れることもなく、南竜ケビンへ。

この南竜 PW の特徴

南竜のケビンに宿泊することだけが決め事。それ以外の行動は自由。自分の気持ちと責任で行動。

- ① 初日の集合場所は南竜。登山口の別当出合での集合はなし。勝手に南竜まで行く。
- ② 2 日目のワンデリングもそれぞれの企画で OK。
- ③ 下山も各自勝手に。(別れがたくなるので、下山は一緒の場合が一般的かな)



オタカラコウ

体力・気力だけではなく 優しさも

集合地の南竜に到着後、荷物を置いて甚之助小屋まで戻った。後から来る B グループ 6 名を出迎えるためだ。そして 6 名が甚之助小屋に到着すると、6 名の中で最も重いと思われる合津さんのザックを背負って、目的地の南竜に先行出発。

体力や気力だけではこんなことはできぬ。どんなに疲れても、人に尽くす優しさを持ち合わせている。

その男の名は、伊豫欣二。

グループ C：高水間淑子 篠島益夫

篠島さんのマイカーで、関西から別当出合へ。山に同行することも多い二人なので、雨であれ遅い出発であれ、恐れるものはない。着実な足取りで南竜に向かう。

その二人の到着を心待ちにして南竜山荘で待機する YA さん。二人は、南竜山荘に寄らず、南竜ケビンに直行。YA さんの心使いも大きな空振りに、無念。

雨にも負けず 南竜に 12名全員 無事集合

強烈な雨だが、予定の 12 名全員が南竜ケビンに集合できた。馴染みのあるコースでもあるが、みんなに会いたいという意欲が後押しした結果でしょう。

集合後、積もる話に盛り上がるのは、例年の通りだ。
(話題の内容については別項参照)



1 年ぶりの再会に乾杯！

宿泊は南竜ケビンだが、食事は近接の南竜山荘だ。



しっかりした雨対策で、別当出合を出発

大臣を育てた教育者

授業中に、先生の話も聞かずに眠ってしまう生徒たち。その生徒たちを相手に、教師魂をぶっつけ、情熱的な教育を実践。

その生徒たちは期待に応えて、社会人になっても大活躍。その一人は大臣にまで上り詰めた。だがこの生徒もどこで間違ったのか、パンツ大臣の汚名も。

その情熱的女性教師の名は、高水間淑子。

第 2 日目

天気もやや回復傾向 それぞれワンデリングだ

ご来光組

奇跡の天候回復を祈って、午前 3 時過ぎに起床。南竜ヶ馬場は濃いガスの中。このまま展望コースのアルプス展望台に向かっても、『ご来光』の見込みは全くなし。再び寝ることに。(決断の速さは結構だが、心中で、悪天を歓迎していたのかも)

別山組

篠島さんと山中さん。

このお二人は、日本百名山完全登頂者であり、今なお国内・海外の山を積極的に歩き回っている。また一緒にパーティーを組むことも多々。

この二人は、この程度の天候で、予定変更をする気は一切なさそう。篠島さんが、朝早く山中さんに「起きるぞ」と起床ラッ



パの声をかける。(山中評によれば、篠島さんは、一度決めたら、そう簡単に変更しない…意志の強いタイプ)

午前7時前には、別山に向けて、出発。別山頂上までワンデリングをして、南竜ケビンに戻ったのは、午後4時半ごろ。山中さんは汗びっしょりで、二人とも満足気の様子。



クモニガナ



チングルマ

室堂組

別山組が出発した後も、南竜の天気は相変わらずの状態。全体のムードは、昨年同様、沈殿ムード。『しょうがないな。酒でも飲んでだべろうか』。

午前8時半前後か、なんとなく空が明るくなってきた。「せめて室堂まで行こうぜ」の声に反応した男は、合津さん、山村さん、伊豫さん、穴田さん、伊藤さん、白井さん、保田さん、鍋島の8名。決めたら行動は速い。9時には南竜を出発、エコライン経由で室堂を目指す。エコ

ーラインの入り口でオコジョに激励され、弥陀ヶ原を気持ちよく歩き、五葉坂でアゴを出し、何とか室堂に到着。

「室堂まで来たのだから、俺は御前峰まで行ってくるよ」という男は一人も現れず。団体行動の規律を遵守する良識派か、これが限界の高齢登山者ばかりなのか。

帰りは、アルプス展望経由。展望台からの急斜面周辺のお花畑は印象的だ。素晴らしい。

直近でもヨーロッパアルプスを堪能

この南竜 PW の連絡を互いに取り交わすメールの中に、次の内容のメールがあった。

『わたしも先日イタリア、オーストリア、ドイツのアルプス展望の旅から戻ったばかり』

南竜で、この方とその旅の話をする時間がなかったのが残念。もしかしたら、ドロミテ、コルティナ、グロスグロックナー、ツグスピッツ…等の旅かな。

今なお、海外にも旅する積極派の山男の名は、篠島益夫。



オコジョに激励される

南竜道からエコラインに分岐する場所での休憩中、我らの足元付近を、オコジョがチョコチョコ走り回る。我らに何の警戒心も持たない。

「ここから急登が始まるよ。高齢だろうけれど、頑張れ」と言っているようだ。かわいいね。



室堂でくつろぐシルバーエイジ

少々お疲れかな。

赤シャツの男性は、現地で会った穴田さんの知人。後方の白山比咩神社の祈祷殿の建築に携わる宮大工さん。

生物探求組

黒崎さんと高水間さん。

二人の学生時代の専攻は生物学。今なお、生物への探求心のレベルは高い。今日も、南竜、油坂から天池へと、生物研究のワンデリングだ。

南竜付近の半世紀前（学生時代）の植生と今の違い、外来植物の現況…等について、研究しているのかな。

この二人は、翌朝も南竜の植物を採って、研究をしている様子だった。（学生時代に何を勉強したかも記憶にない小生にとっては、尊敬しちゃうな）



45年振り 知人女性を訪問

45年も前に、南竜で仕事の関連でお会いした女性がいる。その女性は、今や、白峰の栃餅しんさ本舗の女主人。

このPWの行き帰りの2度、この女性を45年ぶりに訪問。お互いにそれぞれの顔はわかったとのこと。積もる話もあろうが、山の行き帰りのわずかの時間での逢瀬だ。

今回の山行自体も楽しかっただろうが、この再会の方がより印象的な場面だろうな。

そんな劇的再会を演じた男の名は、黒崎史平。



翌朝も、南竜ケビン前で、二人の研究は続く

ワンデリングで疲れた後は そうめんでお楽しみだ



全員、ワンデリングから帰った後は、合津さんに持ってきていただいた『そうめん』を料理。お腹を喜ばせた。

そこで、珍しい光景が見られた。

いつも働きの悪い9期の面々が働いている。そして8期の皆さんが食べることに専念してくれた。

9期もやればできる。いつもやる気がなく、さぼっているのだな。



南竜ケビン 酒は進む 話は乱れ飛ぶ

2.7L のウイスキー、1.8L の大吟醸、地元の銘酒やワイン……。

南竜酒場に持ち込まれた酒は品種も多く、量も多い。



初日、二日目とも、南竜ケビンは居酒屋状態。

高齢者登山で体も少々お疲れ気味。その体に、お酒がぐいぐい染み渡る。口も軽くなり、話も盛り上がり、あちこちで脱線。

話題 A

強い絆を作った山小屋建設！！

参加者 12 名全員を強い絆で束ねる共通体験は、何ととっても、半世紀前の倉谷の山小屋建設だ。

建設の主導役であった合津リーダー（当時 4 年）が語る。

- ① 学校・役所との交渉
- ② 倉谷の廃家となる住居の材木を譲り受けるために、家主さんをお願い
- ③ 資金の問題。白山オープン山行で得た利益も一部投入
- ④ 完成後の悩みも多かった。冬の雪でつぶれないかどうか
卒業で金沢を去るにあたり、3 月に一人で山小屋の無事を確認し、安堵
- ⑤ … …

『蝶よ、花よ』と大切に育てられた坊ちゃん、お嬢ちゃんたちが、この重労働の山小屋建設に、喜んで飛び込んだ。そして半世紀後の今も、その大事業を懐かしく思っている。

（この記録誌の最後に、山小屋建設作業の風景を掲載）



KUWV OBに甲子園球児がいるぞ

甲子園球場の場内アナウンス

「ピッチャー 合津」

あの憧れの甲子園球場のマウンドに向かうときは、相当の高揚感が体全体、心全体を覆うたようだ。地に足がつかなかった感じではなかろうか。

そんな大舞台で、どんなピッチングをしたのだろうか。試合には勝ったのかどうか。

さて、投げたのは高校時代ではなく、社会人で、会社を代表して試合に臨んだとのこと。（後楽園球場でも投げたらしい。）

正確に表題を付けるとすれば、甲子園球児ではなく、甲子園球爺かな。（ゴメンナサイ）

そんな貴重な体験の持ち主の名は、合津尚。



南竜ケビン おじさん方の居酒屋談義

話題 B

8年続いた南竜PW 10回までは続けよう

この南竜 PW が決まったのは、2008 年 9 月 14 日の居酒屋談義。KUWV・OB 総会の二次会（昔のおでん屋『よしだ』の娘さんのスタンドバー）で、山村さんがこの PW を提案したのだ。そして翌年の夏に、13 名の者が南竜に集まった。

今年の南竜の居酒屋談義でも、重要事項が決定。

- ① この PW を第 10 回目まで必ず続ける
- ② 第 9 回の幹事は、伊藤俊成さん
- ③ 第 10 回の幹事は、山村嘉一さん

その日までは、健康を維持できるように、各位の日常の健康管理が大事。君もがんばれ、俺もがんばるぞ。

山村さんからの決意メール

(2016 年 7 月 30 日)

伊藤さん&みなさん

今年も KUWVOB 南竜集中パーワンに無事参加できまして、誠にありがとうございました。

途中危なっかしい場面もありましたが、お陰様で軽い筋肉痛で終わっています。皆様の早いお礼メールや無事帰着のメールが飛び交っているのに、小生はお礼が遅れてすみませんでした。

天候はとても恵まれた状況ではありませんでしたが、なんせ多彩（多才）なメンバーに恵まれ、この上ない楽しみを堪能させて頂きました。

会話の少ない我々夫婦なのですが、今のところ食事時の話題が絶えず、家内からうらやましがられています。しかし、身の程（歳）を考えなさいとか、荷物やビールの量についての厳しい指摘で終わるのですが。

さて、2009 年にスタートして 5 回で終わろうとしたら、9 期千葉組を代表して伊藤さんが気持ちよく引き継いで頂き、来年の 9 回目もお世話頂く予定です。

となると 10 回目はどうしても小生がやらねばならないかと・・・・・・。今のところは何とかできるかと思っているのですが、もしかしたら、ケビンの予約だけ、てなことにもなるかも.....。まあ前向きに考えようと思いますのでよろしくです。

山村 嘉一

ケビンでの話はぽんぽんと続く



女房に『荷物とビールの量が多い』と言われても 俺はやる

2 泊 3 日の小屋泊りの山行なのだがザックの中はつつい膨らむ。

南竜の小屋で彼らに、チーズフォンデュを作って食べさせてあげようかな。喜んでくれるかな。じゃ、食材も火器も十分にパッキングしなくちゃ。

帰りの南竜道の休憩地で、オレンジを出してあげたら、みんな元気になるだろうな。今年もオレンジ詰めていこう。

懐中電灯を忘れる奴、電気切れになる奴、時々いるよな。そんな友のために、スベア持っていこうかな。

これで、大きなザックがパンパンだ。

室堂に着いて飲むビールはおいしんだよ。俺は今年も飲むぞ。みなさん、おいしいよ。飲みなよ。

こんなに優しい男性といつまでも山仲間でありたいね。

その山男の名は、山村嘉一。



「そろそろチーズフォンデュ出来たかな」
「おいしそうね。私、一番に食べよう」

この PW で、名カメラマン達によって撮られた花の写真 (その一部)

白山の花



ミヤマリンドウ



ハクサンフウロウ



ヤマホタルブクロ



ニッコウキスゲ



アザミ



タテヤマウツボクサ



ハクサンダイゲキ



ミヤマダイコンソウ



チングルマ



クルマユリ



エゾシオガマ



ハクサンボウフウ



ヨツバシオガマ



ウサギギク



タマガワホトトギス



クロユリとハクサンイチゲ



タカネマツムシソウ



ミヤマダイモンジソウ



オヤマリンドウ



コイチョウラン



ビデオマン? スキーマン?

第3日目

今年も楽しい南竜PWだった 無事に下山だ



この南竜道はほぼ平坦だが崩れているところもあるね。高齢者にとっては、整備してほしい道だね。気をつけて。

何はともあれ、全員ケガも病もなく、元気に別当出合に下山できた。楽しかったぜ。

いい家族に囲まれ 白山を眺める日常

息子さん家族と同居。もう一人の息子さん家族も近距離に。自宅の庭先からは、白山のピークも望める。

白山行きの前泊組は、奥様から厚いもてなしを受け、更には、おにぎり、お手製の柿の葉すし、ブドウ…等をたくさん持たせていただいた。素敵な奥様。

その柿の葉すしも、帰りの中飯場で、メンバーの最後のエネルギー源として完食。美味しい。

いい家庭環境だね。こんな日常を送る幸せな男の名は、穴田昭一。



合津先輩の安全下山宣言で PW終了 at 別当出合

俺 お坊ちゃま!?

A 君：俺、新人トレーニングの山行に、パジャマを持参したよ。

(陰の声：坊ちゃんらしい坊ちゃん)

B 君：かわいい我が坊やを冬山に行かせるわけにはいかぬ…母親は、某大物リーダーの下宿へ直談判に。結果は、心配しながらも愛息をリーダーにゆだねることに。

(陰の声：まさか君は、坊ちゃんでなかろう。人は見かけによらないね)

彼ら坊ちゃんの名は、……

(忘れた)。

来年も来ます
よろしくお願ひします

先輩の皆さんに、優しくしていただき、楽しい山行でした。何もできない口先人間の私たちですが、先輩たちと一緒になら、来年も登れるような気がします。

甘えん坊の男たちの名は、KUWV 9 期一同。

編集後記

・貴重な写真、ありがとうございます。

穴田さん 山村さん 篠島さん
保田さん 黒崎さん

・最終仕上げでの校正・ご意見等に、多大のご協力ありがとうございました。

・白山下山後、5泊6日で黒部源流の山を歩きました。上品な笑顔の81歳のおばあちゃんと全国の山々のトイレ改善に取り組む77歳のおじいちゃんに出会いました。

私たちも老けこんではいけません。

見習って、山歩きを続けましょう。

(記録係：鍋島 武)

参考追補版

昭和39年(1964年) KUWV新入部員トレーニング

資料提供者
穴田(写真) 鍋島(記録)

全員集合 at 倉谷の河原



高三郎山登山 残雪あり 1964.5.3

第2班 3年生 宮保洋子(リーダー)
 2年生 山村嘉一 柳川徹 藤井洋治 井上義和 藤平
 1年生 金田良子 服部千章 服部芳男 吉田洋次郎 上山巖 鍋島武

山小屋建設用地の整地
1964.5.4

行程概略

5月2日(土)

金沢=》駒帰バス停

15:05 駒帰発

18:00 倉谷

5月3日(日)

6:05 倉谷発

11:25 高三郎山頂上着

12:00 " 発

16:00 倉谷着

テント設営・撤収、石油
 コンロの取扱、パッキン
 グ術の指導を受ける

18:00 キャンプファイア

5月4日(月)

8:00~11:30

山小屋建設用地の整地

13:30~17:00

山小屋建設用石の運搬

(河原から建設用地へ)

17:30 キャンプファイア

5月5日(火)

8:00 倉谷発(第2班)

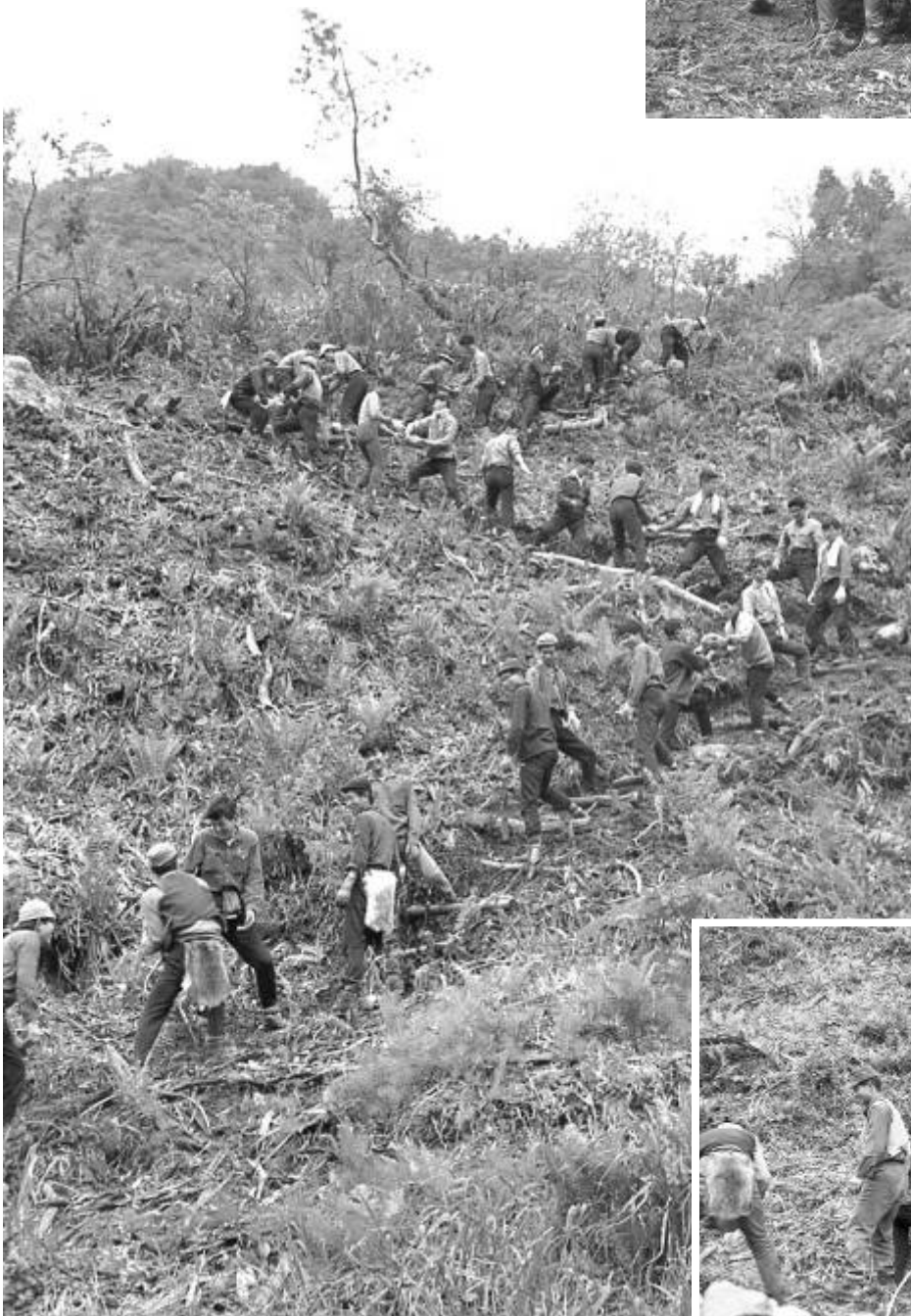
11:15 駒帰バス停着

山小屋建設用地の整地 (1964.5.4)



山小屋建設用石の運搬 (1964.5.4)

山小屋の基礎に使用する石を、倉谷の河原から建設用地まで、リレー方式で運び上げる



豪雨に逆らわず 白峰の民宿に避難

第9回 2017 年 7 月 25 日～26 日 白山南竜 PW

第9回 PW リーダ伊藤俊成さんが、KUWVOB ホームページに投稿したものを転載

2017 白山南竜集中 PW

7 月 25 日（火）～27 日（木）に予定しておりました今年の白山南竜集中 PW は、残念ながら「線状降水帯」の威力に吹き飛ばされ、中止いたしました。

とりあえず 25 日（火）の朝に市ノ瀬の登山センターに集合し、最終判断となりましたが、降り続く豪雨にメンバの年齢を重ね合わせると、山へ向かうという解は見つかりませんでした。（ちなみに合津先輩は「喜寿」だそうです、一番お元気でした）しかし、せっかく集まったのだから白峰の民宿で一泊し、懇親を深めようということになり、これには直ちに全員が賛成となりました。

当日は白峰村全体が休みであるということ、また急なことから宿探しにいささか苦勞をしましたが、「山和荘」という民宿の御好意で、素泊まり & 外食が可能となり、また宿の温泉も素晴らしく、南竜ケビンとは異なる楽しい一晩を過ごすことができたのは何よりだったと思っています。

翌朝は曇り空、山にはガス、誰も山へ向かおうということはなく、開山 1300 年のお祝い PW は幕を閉じることとなりました。

この PW も来年は 10 回目、我々世代では最終回となる予定です。順調に高齢化が進み、誰もが体のあちこちにトラブルを抱えるようになりましたが、お互い来年の再会まではと意を決したことは言うまでもありません。

以上、ご報告申し上げます。

9 期 伊藤俊成

元気な声で「行ってきます」&無事な姿で「ただいま」

ワングル活動は、自宅を出る際に、「行ってきます」と元気に言うことから始まります。そして、「ただいま」と言って、無事な姿を見せることで、ワングル活動が完結します。

今回の第9回白山南竜 PW では、別当出会いに集合した皆さんが南竜ケビンまで行きつくことができたかどうか問題ではありません。自宅を元気に出発したときに白山南竜 PW が始まり、無事に自宅に到着したときにその PW が終わったのです。

白峰の大和荘に急遽避難した PW の参加者はベテランぞろい。沈殿の時間を大いに活用して、白山南竜のケビンに集うと同じように、有意義な楽しい一晩を過ごされたようです。

そう語る筆者は、突然の腰痛で、「行ってきます」も言えず、ベッドで寝がえりもできない状態です。白山南竜 PW に参加できず、我がハートは、白山に負けないくらいの豪雨でした。

KUWV**Kanazawa University
Wandervogel-OB****白山・南竜 PW
2018 年夏**

俺たちや 10年間 通い続けたよ 霊峰白山に



第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 8 月 2 日 中宮温泉 くらゆり荘

酔っ払いが決めた企画

白山南竜 PW のきっかけは、2008 年 9 月 14 日 KUWV・OB 総会の二次会で、山村さんが白山南竜ケビン集合を提案したことだった。

酔っ払い集団であったから、簡単に勢いよく満場一致で決定。

10 年間継続のエンジン役は

この 10 年間の PW のリード役は、最

初の 5 年間は山村幹事長、その後の 4 年間は伊藤幹事長、そして今年は山村・伊藤両氏の共同幹事長だ。

俺たちは大いに楽しめた

白山南竜 PW に集まったのは、『紅顔の美少年』の面影も感じられない高齢者軍団。『登れば仲間に会える』との一念で、風雨にも酷暑にも負けず白山へ。楽しく充実の 10 年だった。

(前列左から)

藤井 信晴(8 期)

村田 泰恵(7 期)

合 津 尚(6 期)

高水間淑子(8 期)

山村 嘉一(8 期)

鍋 島 武(9 期)

伊 豫 欣二(8 期)

(二列目左から)

篠 島 益夫(8 期)

野村 孝弘(8 期)

山中 重夫(9 期)

黒崎 史平(8 期)

穴 田 昭一(8 期)

伊 藤 俊成(9 期)

白 井 勇(9 期)

(三列目)

保 田 敦(9 期)

2018 年(第 10 回) 行動概要 (今年の集中地は 2 か所)

	南竜集中グループ	中宮温泉集中グループ
7 月 31 日	別当出合から砂防新道経由で南竜へ 6 名	白山麓民族資料館等見学 中宮温泉に集合 7 名
8 月 1 日	①展望コースから御前峰へ 2 名 ②エコーラインで室堂へ 2 名 ③別当出合へ直行 2 名 6 名全員が下山し、中宮温泉に合流	・蛇谷ハイキング 7 名 ・姥が滝 ふくべの大滝など ・新たな参加者 2 名 ・南竜からの下山者 6 名 合計 15 名
2 日	中宮温泉 くらゆり荘にて解散	

第10回PWの集中地は 南竜と中宮の2ヶ所

第9回までの形式では、各人がどこから登っても構わないが、白山・南竜に集まってくる方式(白山・南竜集中)を採用していた。

第 10 回の今年は、①白山・南竜と②中宮温泉の 2 ヶ所に集中地を設定。

山村リーダーによれば、『各人の年齢や体調などを配慮して 2 ヶ所に設

定すれば、一人でも多くの仲間が参加しやすくなるのでは』…というネライとのこと。

ネライは大当たり。白山・南竜組は 6 名。南竜には寄らず中宮温泉にのみの集中者は 9 名。2 泊目は南竜組も中宮温泉に集まり、総勢 15 名の大盛り上がりのワンゲル談義だ。

自称『精鋭組』の南竜グループ 砂防新道を往く

南竜組 初日 3 つのグループに分かれて、別当出合を出発し、砂防新道を経て、南竜山荘に向かう。

第 1 グループ 7 時 30 分発 伊豫の単独行。

出発も早ければ、足も速い。南竜到着後に、後続を迎えに甚之助小屋まで下りてきた。現役並みの足腰。

第 2 グループ 8 時 30 分発 白井、伊藤、鍋島の 9 期グループ

『ゆっくりが、モットー』。でも後続には甚之助までには追いつかれたくない。年齢相応のプライドだ。

第 3 グループ 9 時 30 分発 合津、山中の二人は東京から同行。それ故チームワーク抜群で快調。甚之助で、9 期組に追いついた。健脚だね。



『精鋭組』とはいえ高齢者 バテたよ

写真上: 8 時 30 分 別 当 出 合

写真下: 13 時 50 分 南竜道分岐

別当出合での写真(上)では、『久しぶりの山だが、歩けるかな』とちよっぴり不安感も。

『とにかくゆっくり歩こう』

『休憩も頻繁に』と、山の初心者以上に慎重な足取りだ。

それでも 5 時間も歩けば疲労感もでて、当然ですね(下の写真)。

あと 30 分歩けば、南竜山荘に到着だ。何とかなるだろう。



My Wandervogel

現在 78 歳。80 歳を過ぎてもひたすら山歩きを続けたい。またフルマラソンと田舎での生活も維持したい。

6 期 合津 尚



My Wandervogel

80 歳まで山の花を楽しむみたい。

8 期 伊豫欣二



My Wandervogel

『俺、この稜線が好きなんだ。北岳と間ノ岳を結ぶ稜線。実に爽快な気分になるよ。今秋で 80 歳になるが、再び来られて幸せ者だ(2024 年夏)』…という紀行文を 6 年後に書きたい。

9 期 鍋島武





老体に鞭打ち、花に励まされて、一歩一歩上へ。「お！ きれいだ」と、パチリと一枚。

「その花、上にいっぱい咲いているよ」と言って横を通りすぎる中年野郎。『道あけろ』と言いたげ…馬鹿野郎！

花で元気づき、お前の一言でがっかり。山登りはつらいね。

今年もやってきましたよ 白山・南竜に。 来年は……



第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 7 月 31 日 南竜山荘

例年のように、白山・南竜に集まってきたのは、上の 6 名だ。自ら『精鋭組』を名乗るが、平均 74 歳かな 75 歳かな、まさにオジン達だ。

別当出合から砂防新道経由で、南竜山荘に到着したときは、『ああ 疲れたな』『よく歩けたな』というのが本音のようだ。

南竜集中者 6 名はちょっと少ないね。2012 年夏(第 4 回目)では 18 名だったが。高齢化で、あきらめざるを得なかった方もいらっしゃるからでしょうね。

白井さんの声

山登りを始めて 60 年。今回の砂防新道登りで初めてバテました。それでも、南竜へ行けたのは一緒に登ってくれた俊成さんと鍋島さんの気配りのおかげでした。そして、翌日『白井を一人で下山させるわけには行かない』と、御前峰を諦めて同行してくれた山中さんにも感謝です。

9 期 白井 勇

脚の声…『歩き通したのは俺(脚)だよ。脚に感謝してよ。同期の 9 期の奴らには感謝不要だよ。彼らもバテていたよ。急に俺(脚)を酷使するのではなく、平素からもう少し使っちゃうだい。ゴルフ場ではなく、山で使っちゃうだい。』

My Wandervogel

卒業後、白山の御前峰登頂は一回しかない。体調回復に心がけて、もう一度御前峰登頂を果たしたい。

9 期 保田敦



My Wandervogel

鈴鹿セブンマウンテンへの回帰

今回の南竜PWで体力の衰えを思い知らされました。白山は諦めざるを得ません。今後は、中学・高校時代のホームグラウンド・故郷鈴鹿山系の山道を気ままに歩きたいと思っています。

9 期 白井勇



山で怖いのは雷かな。いや爆発かな。

白山にも、こんな新しい標識が建てられていたよ。

各々 自分好みのワンデリングで白山を満喫

南竜組 2 日目 昨夜決めたワンデリングを予定通り実行。

3 グループとも、今晚は中宮組に合流するために下山。

- ① 合津・鍋島…展望コースのご来光を楽しみ、御前峰に登る
- ② 伊豫・伊藤…エコーライン経由で室堂へ
- ③ 白井・山中…現在の体調を考慮し立ち寄りなしで、別当出合へ。

展望コース展望台で ご来光 最高だ



ご来光を仰ぎたいために、二人は午前三時起床。南竜からの急登をヘッドランプ頼りに、夜明け前から汗をかく。

太陽って偉いね。我ら二人の到着を待っていたようだ。我らが展望台に到着するや否や、すぐに顔を出したよ。お天道様はいつも見ているよ。



お花畑とハイマツ帯を縫って室堂へ



室堂で朝食

室堂に 6 時 40 分着。南竜山荘で調達した朝弁当と合津さんが準備してくれた味噌汁で、朝食だ。

新装なった白山奥宮祈禱殿で安全祈願をして、御前峰へ。

My Wandervogel

山はバスかケーブルカーで上のほうまで行けて少し歩けば頂上、というのを探して、おくさんと。

もう 1 つは、山村さんのお世話に甘えて、金沢でたまに飲むこと。

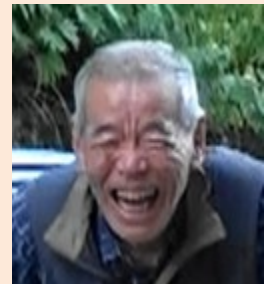
8 期 穴田昭一



My Wandervogel

とりあえず新しい登山靴の調達を決断すること。そして、敢えて目的も目標も定めぬ気ままな心で山を想い、人を想うこと。

9 期 伊藤俊成



先輩を追いかけて

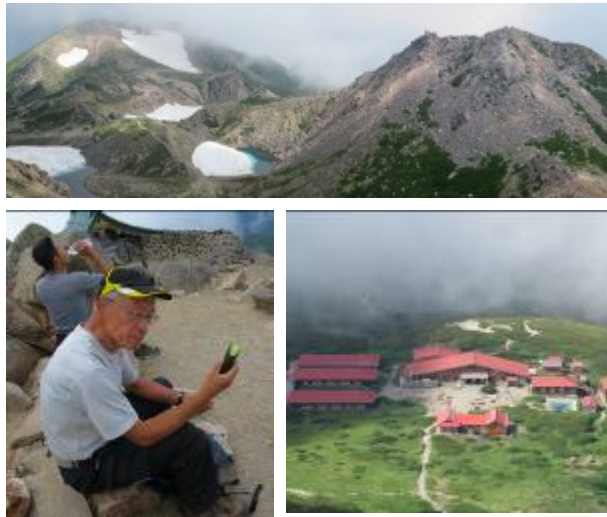
54 年前の冬、合津リーダのもと、大門山に行った。4 年生 3 名、2 年生 2 名、1 年生小生 1 名。45kg の重い荷物を背負い、深い雪のラッセルで、鍛えていただいた。

本日、合津さんに同行させていただき、二人で白山山頂ワンデリングができて、うれしい。依然として強い気持の先輩を見ました。

気の弱い小生。今後も先輩の背中を追いかけて、山登りを継続だ。

9 期 鍋島武

御前峰頂上



頂上では、眺望を楽しみ、腹ごしらえをし、奥宮で神頼み。計画達成で、何か満たされた気分で最高だ。

もしかして、今回が生涯最後の御前峰かも…。ちょっと感傷的に。去りがたい気分だ。

南竜の4名も行動開始

南竜山荘を出発した 4 名は南竜道のエコーライン入り口で二手に分かれる。

白井さん山中さんはそのまま別当出合を目指して下山、一足先に中宮に集中だ。

一方の伊豫さん伊藤さんのグループはエコーライン経由で室堂に向かった。

室堂及び南竜道分岐では 想定外の KUWV-OB 交流会

伊豫・伊藤両氏が目的地の室堂に着いたが、そこには、想定外のうれしい出来事が。

15 期の間所ご夫妻が室堂に来ていたのだ。伊豫さんの行動を予知して、出会えるだろうと思ったとのこと。お二人にとっては想定



内であるが、我らにとっては想定外。

御前峰から降りてきた合津・鍋島組が加わり、KUWVOB 交流会だ。仲良しの良いご夫婦だね。



2018 年 8 月 1 日 南竜道分岐（左から）間所ご夫妻 奥名さん + PW 参加者 4 名

更に驚いたことに、南竜道分岐まで下りてくると、15 期奥名さんにも待っていていただいた。疲れ切っていた我ら PW 参加の 4 名も、疲れも忘れる時間を持たせていただいて、感謝です。奥名さんの奥様には 5 年前の PW で、花の解説をして

いただいた縁もあります。これまたいい夫婦です。

間所ご夫妻、奥名さんの 3 名から、『先輩たち、まだまだ若い。元気に歩け！』との無言の激励叱咤を受けて、我ら 4 名はオジサンらしく慎重に別当出合に向かった。無事に下山できましたよ。

山のピークだけがワングルじゃない 活動の幅を広げた中宮集中グループ

中宮組 初日 白山麓の白峰のワンデリング。

多くの白山登山者はこの白峰を通るだろう。ただそのうちの何%の登山者が白峰に立ち寄るのだろうか。おそらく数少ないであろう。我ら KUWVOB も立ち寄らず、通過するケースのほうが多い。

そこで、今回の中宮集中グループがこの白峰の良さ・魅力を探訪。

白峰はすごい。江戸時代の文化・伝統が生きている



『国選定重要伝統的建造物群保存地区』



白峰の中心部そのものが、『国選定重要伝統的建造物群保存地区』に選定されており、『白山ろく民族資料館』にも江戸時代の文化・伝統が保存されている。白山登山者はぜひ一度立ち寄ってほしい地域だ



山岸家 大庄屋



白山下山仙



織田家



My Wandervogel

南竜 PW は 2009 年から 2013 年の 5 回参加。その後は変形性関節症のため欠席。

マイワングルは一人旅。九州 7 県へは 9 回。下北半島と津軽半島はレンタカーで一周。文化庁の重要伝統的建造物群保存地区を今年中に 100 箇所達成予定。今後も一人旅を続ける。

8 期 藤井信晴



My Wandervogel

もう六甲山すら登坂がなくなったが、野山歩きはまだ続けられる。兵庫植物同好会の会員であり、自然を楽しんでいる。兵庫県立博物館の客員研究員として、藪漕ぎをいとわず、ワングル時代にベトコンと言われたスタイルを維持しつつ、里地や里山の植物を訪ね歩こうと思っている。

8 期 黒崎史平



中宮グループ初日の晩は 8期同期会だ



初日に中宮温泉に集中してきたのは、この7名。偶然にも全員が8期の紳士淑女の面々だ。久しぶりの同期の会話も盛り上がったことでしょう。

(懇親の場に同席していない記録係が、想像で記録した内容は次の通り)

『やあやあ！元気か』『おお元気だぞ』『最近膝を痛めてね、南竜集中はやめたよ』

『山は高みだけを求めちゃだめよ』『高齢ワンダーには山のピーク以外の活動の場が・・・』

『明日は蛇谷あたりを歩こうよ』

『先日、女房を上高地に案内したよ。また立山のみくりが池もいいね』

『今日は、何にもできない、何にもやらない、口だけの9期がいない。静かだね』

『9期の奴らの指導のために、8期から伊豫君一人、南竜に行かせたよ』『孫はかわいいね』

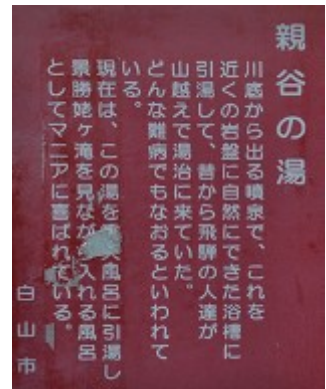
酷暑の夏の夜、冷えたお酒がいいね。おいしいお酒で、夜遅くまで語ったことでしょう。

中宮グループ2日目 ドライブ&ワンデリング



中宮温泉から白山白川郷ホワイトロード(旧白山スーパー林道)を車で走る。この渓谷はワンデリングにも最適な場所満載。

俺たちのこれからのワンデリングはこの形態がピタリかも。



姥ヶ滝 うばがたき 日本の滝百選

姥ヶ滝は、落差76メートルの滝で、山の中腹より岸壁を数百条の細かい流れずるように落ちる。この様子はまるで老婆が白髪を振り乱したように見えることから名前が付いたとされる。滝の下まで遊歩道が整備され、霧雨の降る時期には、滝を眺めながら、静かなブームを呼んでいる。



ふくべ(瓢箪)大滝

田見谷の断崖より86m直下する豪壮な蛇谷随一の大滝で、時にはその水しぶきが道路をおおうことがある。蛇谷金網銀欄壁と云った人もある。その絶壁が見ものである。(自然を大切に)

Fukubenootaki 石川県林業公社



お二人が新たに中宮組に合流

二日目に、村田さん、保田さんが中宮組に新たに合流。画像・映像を得意分野とするお二人だ。

村田さんは、一日遊び疲れたワンダラーに、お茶のお点前でおもてなし。保田さんはいつものPWのように、常時ビデオを抱えて、ワンダラーの生態をとらえる。

この茶会をはじめ、その生態が、保田さんの映像によって公開されますので楽しみに。

全員集合 食べる・飲む・語る 10年の白山南竜PWのフィナーレ

2 泊目は、全員 15 名が中宮温泉くろゆり荘に集合。山小屋ではなく温泉宿で、浴衣姿で、リラックス。

半世紀以上のつきあいの仲間うちだ。遠慮もなく、食・飲・語で、口は大忙し。フィナーレの夜はいつでも賑やかに盛り上がっていた。



My Wandervogel

山麓の温泉に入るだけでなく、高原歩きを目指すよ。そのために体調管理も頑張るよ。

8 期 山村嘉一



My Wandervogel

『元気だから山に登るのではない。山に登るから元気になる』

NHK 深夜便

2017 年 5 月号

三浦雄一郎



(左)乾靖さん
くろゆり荘のご主人。ナイスガイ。
穴田さんの息子さんの友人。多方面に活躍中。
応援してあげてください。
TEL
076-256-7955



白山南竜PW 振り返れば 素敵な思い出が次々と!

楽しかった南竜 PW の小屋での思い出が、次々と頭に浮かびます。南竜酒場のおしながきです。

- ・一番の楽しみは、近江町市場直送の「ドジョウの蒲焼」。大好きでした。予約でしか手に入らないらしい。
- ・強烈に視覚に残っているのはピンク色の地酒『白山フウロ』。雨でびしょ濡れになりながら花を探し、お酒に浮かべ。最高の贅沢。
- ・バテバテでゴールした南竜で迎えてくれた『赤福餅』。口の中にホイと、とたん疲れが吹き飛びました。程よい甘さがいいね。
- ・奥さまとの登山で良しということで披露された『チーズボンデュ』。スイスの山小屋に居るような気分でした。美味しかった～。
- ・山から帰ってきたとき待っていたのは『ソーメン』。東北産茗荷、ねぎの薬味を添えて。ザルは次年度の宿題でしたね。
- ・アルコールは何でもありでしたね。お茶会。自家農園のキュウリ、トマト ビタミン C もしっかりとってお肌綺麗???
- ・デザートは『スイカ』『小松産ブドウ』。愛を感じますね。
- ・朝は『コーヒーのかおり』で目覚め、二日酔いもどこへやら。爽やかにおはよう～でしたね。
- ・最初は神々しく近寄りがたかった先輩も、最後の写



真では隣に。(1頁写真参照)

忘れられないのは、PW 特別参加の笑顔の素敵な登山家谷口けいさん、8 期同期の柳川徹さん。ご冥福をお祈りいたします。

8 期 高水間淑子

My Wandervogel

登山靴をお蔵入りさせてもワンゲルは続けるよ

高齢ワンダラーが否応なく決断を迫られる課題は『いつ登山靴をお蔵入りさせるか』PW 最終日に、山村リーダーから『白山南竜PW は今回限りで終了』が宣言された。『白山南竜に集まろう』という統一行動は、年齢からいって、今後は難しい。これからは各人各様の自分流のワンゲル活動に進むことになる。

幸いにワンゲル活動は『登山靴をお蔵入り』させたとしても、その活動は終わるわけではない。自分流のワンゲル活動『My Wandervogel』が始まるのだ。

今回の PW 参加者が語る『My Wandervogel』を各ページに掲載した。

ますますお元気に活躍のワンダラー

アメリカ旅行のため出遅れてしまった村田です。

旅行前の慌たしさで何のリポートも出来ませんでしたが、駆け込みでメールを送らせていただきます。

8 月 2 日解散後、伊藤、保田、山中、村田の4名は先ずホワイトロードに入り、「ふくべの大滝」、「白山展望台」でいつも眺める白山を裏側から眺めリターン、一路金沢に向かいました。

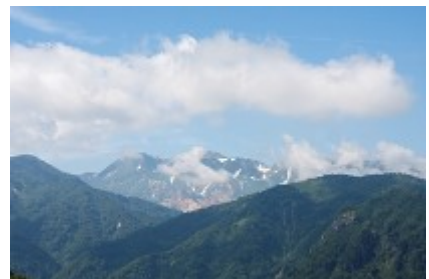
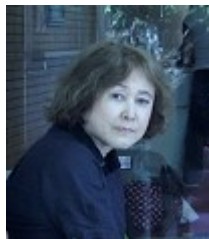
道の駅「瀬名」に立ち寄った後、手取峡谷の「綿ヶ滝」へ。駐車場から120段の階段を恐々降りるとそこは別天地、綿を切ったような流れの「綿ヶ滝」が優しくも轟音を響かせて手取川の岸壁を流れ落ち、一陣の風とともに頬を撫でる水しぶきの心地よさ、溪谷美を堪能した後の登りの過酷なこと、せっかく引いた汗がまた噴出す始末。鶴来の「そば処さかい」で白山そばを賞味し、伊藤、保田両名と別れた村田は山中氏を金沢駅まで無事送り届け帰宅。

前日の茶会も滞りなく終了。全国茶人の垂涎の菓子処「吉はし」の幻の上生菓子「苔みどり」と米沢緑翠園の「幸の白」で一服、暑さを吹き飛ばして頂きました。されど殆どの人にこの菓子の貴重性には気づいて頂けなかったようです。

5日後には暑い日本を脱出してアメリカはワシントン州のアナコースト、シアトルで涼しい1週間を満喫して私のこの暑い夏は終わりそうです。

あ、もう一つ、11月1日～8日、「東京都美術館」で「第92回国展受賞作家展」に出品していますので、近郊の方は散歩がてら上野の森へ足をお運び頂ければ幸いです。

7 期 村田泰恵



この殿方は昼の蝶にも好かれてるよ。もうちょっと若い頃は、夜の蝶に追っかけられたのだろうな。
(8月2日砂防新道にて)

白山南竜 PW をお手伝いして

9期 伊藤 俊成

7年連続7回目の白山南竜PWの参加、どの回も鮮明な記憶を残し、終わりを告げた。

思えば、退職辞令をもらったその足で神田神保町「石井スポーツ」に赴き、登山靴とザックを購入するきっかけを作ってくれたのは、この白山南竜 PW 計画の存在であった。

あれから足掛け7年、PW 最後の今年、砂防新道の途中で登山靴のビブラム底が剥離してきたことは、店員が言った登山靴の寿命とくしくも一致することとなった。これも神の定めし運命なのだろうか？

私個人にとって私をここまで頑張らせた要因は、山村先輩のお手伝い役を、9期千葉組の代表に担ぎ上げられたことに尽きると思っている。この役目がなければ、トレーニングを怠り、私の山登りも挫折していたかもしれないと考えると、感謝の念が湧いてくる。

いつまでたっても超すことのできない先輩達、時折り顔を見せる後輩達、そして口さがない先輩から『何もしない9期』と言われつつ敢えて甘んじてきた同期の面々、ご協力いただきありがとうございました。ただただ感謝の気持ちで一杯です。

迎えてくれた白山の花々(名前はどうも忘れませんが・・・)、アサギマダラ、オコジョ、そして満天の星空に豪雨、ソーメンにキュウリ、白峰民宿のおばさん、まだまだいっぱいあります。

大切な思い出をありがとうございました。

以上

KUWVOB 南竜集中 PW 第十回で終了！

2018.08.19 山村 嘉一

今を去ること10年前の2008年9月14日、金沢大学ワンダーフォーゲル部創立五十周年記念総会懇親会の二次会で話が盛り上って実現した『白山の南竜に集まろうや』というこのパーワンも、十回目を迎え、これにて終了とすることとなりました。五回目の時にそれまでお世話してきた山村が『五回も続けてきたのでこれで止めたい』と言ったところ、『何とかして十回まで続けてその十回目を山村が締めるという条件で、それまでは9期千葉組がお世話をする』ということになり、9期千葉組を代表して伊藤俊成さんのお世話のお陰で途切れることなく、幾多の思い出を残しながら最後の十回まで続けることができました。全十回皆出席の方はもちろん、一回でも参加された方、すべての皆様のご協力に心より感謝申し上げます。お陰様でKUWVOB としてのワンダーフォーゲルらしい活動が続けられてとてもうれしい気持ちです。

ただ、個人的には最後の回の南竜ケビンに参加できなかったことが誠に残念至極です。それも日頃の自分の健康管理、体力管理のまずさと努力不足によるものかと思うとみじめな気持ちになってしまいます。

そもそも虚弱児童で小学校入学を2回やっつの学校生活のスタートから、どうにか人並みの健康体となり、ワンダーフォーゲルに巡り合っ自分としては思った以上の活動ができたと思い、運動神経は鈍いけど、歩いたり登ったりするだけなら一生続けることができると思い込んでいました。歳を意識しながら、昨年9月中旬には燕岳、同じく月末には、迎えた75歳の元気を確かめるために白山御前峰に、ヘロヘロになりながらも登ることができました。ところが、今年の正月に発症した変形性腰椎症、脊柱管狭窄症による坐骨神経痛が完治せず、5月25日の上高地、7月26日の立山室堂の散策は何とか歩けたものの、南竜まではとても行けない状態となってしまいました。(お聞き苦しい愚痴話になって申し訳ないです。)

今後は少しでも良くなるように頑張るつもりです。山麓の温泉に浸かり、昔を思い出して悔しい思いを巡らせだけでなく、せめて高原歩きができるようにしたいと思っています。

KUWVOB の皆様！今の健康も体力もアツという間に失うリスクが日常生活の中にあるかもしれません。どうか山村の轍を踏むことの無きよう、くれぐれもご留意されますように！！

以上

幹事役あってこそそのパーワンです。10 年間にわたり、お世話いただき、心から感謝申し上げます

参加者一同

編集後記：写真、文書投稿、My Wandervogel の表明など皆様のご協力、ありがとうございます。
その立派な資料を上手に活用できずご容赦を。
(記録担当 鍋島武 nabeshima2828@nifty.com)



伊藤共同幹事長 合津名誉幹事長 山村共同幹事長